

平成28年度

第五次青梅市生涯学習推進計画

進捗状況報告書

(平成27年度分事業)

青梅市生涯学習推進本部



はじめに

青梅市では、生涯学習施策を計画的に推進するため、平成26年度を初年度とする「第五次青梅市生涯学習推進計画」を策定し、様々な施策に取り組んでいます。

この報告書は、「第五次青梅市生涯学習推進計画」の進捗状況について年次報告として作成したものです。

生涯学習の理念である、市民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現に向けて、計画の総合的かつ横断的な推進を図ります。

平成28年9月



## 目 次

### 第 1 章

I 計画の概要	7
II 施策の展開	10
III 青梅市事業計画一覧	15

### 第 2 章

計画の進捗状況調査報告書	21
1 生涯学習の基礎づくり	23
(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実	23
(2) 小・中学校教育の充実	24
(3) 家庭・学校・地域の連携	26
2 生涯学習の場と機会の拡充	29
(1) 施設の整備と有効活用	29
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	29
(3) 共に生きるための学習機会の充実	34
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	37
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実	40
3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から	43
(1) 地域コミュニティ活動の支援	43
(2) 地域人材の育成と活用	45
4 学習情報提供と学習相談の充実	48
(1) 学習情報提供の充実	48
(2) 学習相談の充実	49
5 生涯学習推進体制の確立	50



## 第 1 章

### I 計画の概要

### II 施策の展開

### III 青梅市事業計画一覧

---

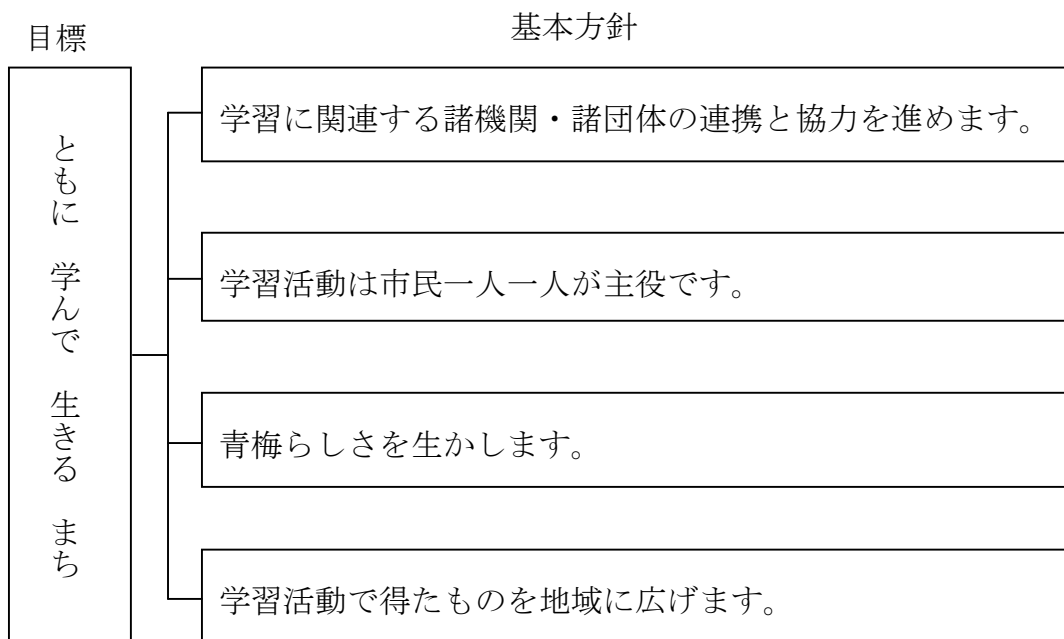




# I 計画の概要

## 第五次青梅市生涯学習推進計画

### 1 生涯学習推進の目標と基本方針



市民が生涯を通じ、学習の機会を選択して、様々な知識や技術が習得し、人格を磨き、「ともに学んで生きるまち」を実現できるように生涯学習の推進を図ります。

### 2 計画策定の趣旨

青梅市では、市民一人一人が生涯を通じて地域社会の中でともに学び・ともに教え合いながら、生きがいのある充実した生活を送ることができるような「生涯学習社会」を築くために、生涯学習推進計画を策定します。「ともに学んで生きるまち」を目指して、市民と行政のパートナーシップをもとにした生涯学習のまちをつくるために、市が実施している生涯学習関連の諸事業を体系化するとともに、市内生涯学習関係機関団体との協働により、諸施策の効果的な展開を図っていきます。

### 3 計画の期間

平成26年度から平成30年度までの5年間とします。

この推進計画は青梅市総合長期計画を上位計画（平成25年度から平成

34年度)とし、他の部門別計画とも整合性を図っていきます。

#### 4 計画の指針

青梅市における生涯学習に関する施策の総合的・効果的な推進を図り、生涯学習に関する既存施策を総合的な観点から体系化するとともに、将来において展開する必要がある施策の考え方を示します。

#### 5 計画の範囲

- (1) 生涯学習社会の形成に向けての市の役割を明記するものですが、計画の推進にあたっては、生涯学習に関連する各種団体・機関等の協力を得て推進します。
- (2) 対象となるのは、教育、文化、スポーツのほか、趣味やレクリエーション、福祉、保健衛生、防災、まちづくり等、市や各種団体・機関等で行う幅広い分野の学習事業とします。

#### 6 生涯学習の背景

- (1) 知識学習としての生涯学習  
社会の変化は次々と新しい知識や技術を出現させ、それぞれのライフスタイルやビジネスを充実させるために、それらの学習が必要とされています。学校の学習だけでなく社会人になってからも、学習し続ける必要があります。
- (2) 職業教育としての生涯学習  
市場の国際化に伴い、技術革新や労働の質の向上のため、職業技能や能力開発に関する研修や訓練が重視されてきました。(企業内研修からリフレッシュ教育、リカレント教育への取組へ。大学等高等教育機関に対して学習機会提供の期待が高まっています。)
- (3) 生きがい追求としての生涯学習  
時間的・経済的余裕が仕事以外で自己実現を可能としました。仕事を離れた高齢者や子育てを終えた女性が趣味・教養等の「自分探しの学習活動」を通じて、生きがい・充実感を追求する気運が高まっています。
- (4) 心のうるおいとしての生涯学習  
急激な社会変化がもたらす人間疎外や人間性の喪失に対処するため、心のうるおい・人との交流・ふれあいを求めて、仲間探しの学習活動が増えています。
- (5) まちづくり（地域形成）としての生涯学習  
学習する向上心が地域の活性化をもたらし、学習活動を通してこそよい

人間関係が生まれ、豊かで住みよい地域が実現されます。学習した人々が地域の担い手として地域づくりに参加し、学習の成果をまちづくりに生かしていくことが期待されています。

— スローガン —

「ともに学んでいきるまち」をめざして

O 応援します お互いに

M 学んで 教えて

E エンjoyします

みんなで 楽しむ 生涯学習

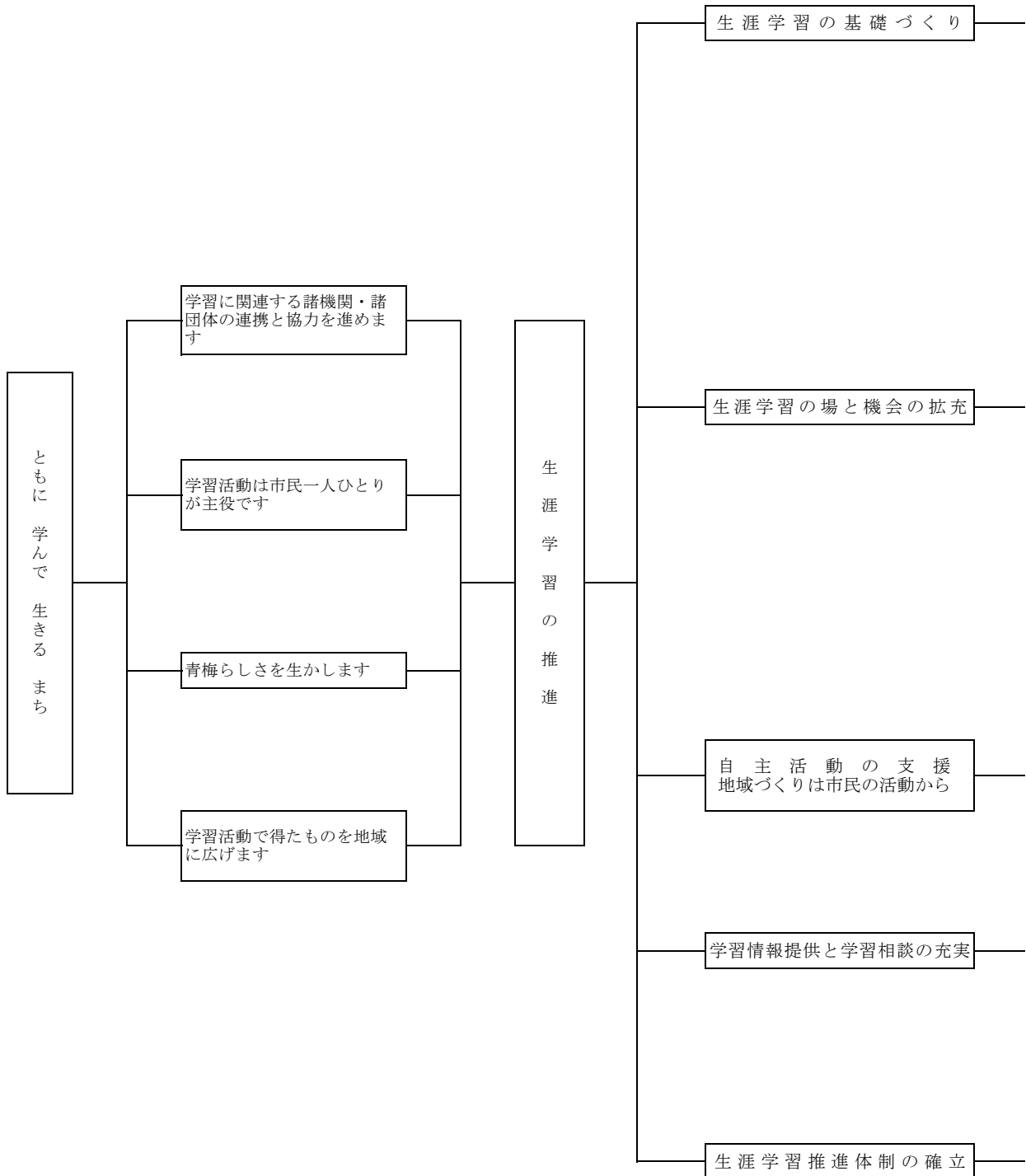
## II 施策の展開

### 1 計画の体系

(目標)

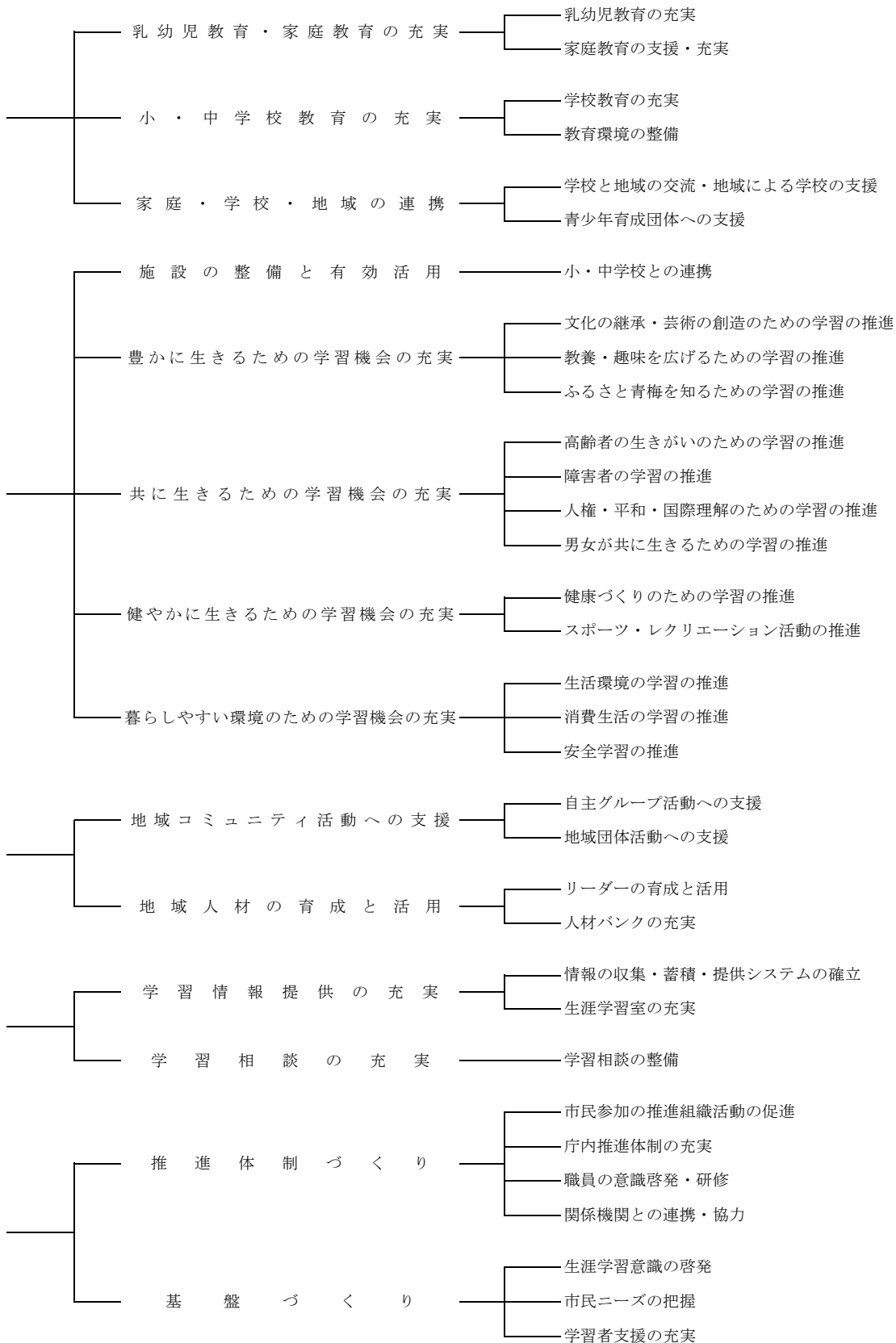
(基本方針)

(基本的施策)



(主な施策の方向)

(具体化の方策)



## 2 基本的施策

5つの基本的施策を設定し、総合的に施策を推進します。

- 1 生涯学習の基礎づくり
- 2 生涯学習の場と機会の拡充
- 3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から
- 4 学習情報提供と学習相談の充実
- 5 生涯学習推進体制の確立

### 1 生涯学習の基礎づくり

#### 基本的な考え方

生涯にわたり自らが考え、創造性豊かな充実した人生を送るためには、人間形成の基礎をつくる子どもの時期に基本的な学力や自らを成長させようという意欲、生きる力などを身につけることが大事です。

個性豊かな子どもの健全な成長を願い、子どもを取り巻く家庭・学校・地域が連携して子育て・教育の充実を図り、地域社会全体で行われるような環境を目指します。

子どもを取り巻く学習環境を見ると、少子化・核家族化の進展と同時に、家庭教育力・地域教育力の低下や親の意識改革が叫ばれています。また、いじめ、登校拒否等、様々な問題が子どもたちに重圧をかけてきています。このようなことから、各保育園で行っている子育て支援事業との連携や、小・中学校との連携を含め子育て相談、家庭教育の機会の提供など、家庭教育への支援や地域での青少年関係団体活動への支援などを通して「生涯学習の基礎づくり」に努めます。

#### 主な施策の方向

- (1) 乳幼児教育・家庭教育の充実
- (2) 小・中学校教育の充実
- (3) 家庭・学校・地域の連携

## 2 生涯学習の場と機会の拡充

### 基本的な考え方

市民が自主的に生涯にわたって学習し、健康で豊かな生活を送ることができるよう、市民一人一人がその能力や個性を伸ばし、自分の求めるものを自分に合った方法で「いつでも・どこでも・だれでも」が学べるよう、学習の場と機会の拡充に努めます。

また、あらゆる市民が身近な施設で活動できるよう、利用しやすさやバリアフリーの視点等から市民センター等の改修整備に努めます。また、インターネット等の活用による各種イベント情報の提供など、市民の利便性の向上を図ります。

### 主な施策の方向

- (1) 施設の整備と有効活用
- (2) 豊かに生きるための学習機会の充実
- (3) 共に生きるための学習機会の充実
- (4) 健やかに生きるための学習機会の充実
- (5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実

## 3 自主活動の支援

### 基本的な考え方

地域づくり・まちづくりは市民の着実な活動から始まります。団体・サークル等の自主活動を通じて、仲間とのふれあいが生まれ、人と人との関係が豊かになってきます。このような自主活動の中で、お互いに学び合い、教え合うような人間関係が形成されます。こうした自主的な地域団体・自主グループの活動が活発になるよう応援するため、その自主性を基本として、活動の場の提供や講師・指導者の紹介などを支援していきます。

市民同士が教え合い、学び合う環境を整備し、生涯学習を地域から市民の手で推進していくような方策について検討していきます。

### 主な施策の方向

- (1) 地域コミュニティ活動への支援
- (2) 地域人材の育成と活用

## 4 学習情報提供と学習相談の充実

### 基本的な考え方

市民一人ひとりの学びの意思・意欲を大切にするとともに、学習活動が活発になるためには、生涯学習情報が「いつでも・どこでも・だれでも」が入手できることが求められています。

このことから、広報等の印刷物による学習や機会の場・方法などに関する情報をはじめ、インターネットによる情報提供を実施し、市の生涯学習事業に関する情報を発信することで、市民の生涯学習を支援します。

### 主な施策の方向

- (1) 学習情報提供の充実
- (2) 学習相談の充実

## 5 生涯学習推進体制の確立

### 基本的な考え方

生涯学習関連事業は、教育委員会部門だけでなく、行政部門でも各課で様々な事業が活発に行われるようになってきています。市民の自主的な学習活動を効果的に支援していくために、現在各課で個々に企画実施されている生涯学習事業を、それぞれの事業の目的を大切にしながらも、市民の生涯学習の推進という視点からとらえなおして、関係部課の横の連携協力関係を築いていくことが大切です。

各課の横の連携、情報交換を図ることで、同様の事業が他の部課と重複して実施されることを避け、バランスよく効率的に事業を実施していくことが必要です。そのために、市民の生涯学習を支援するという観点からの各課の事業担当職員の共通理解が必要です。

また、学習の主体である市民の意見を推進施策に反映させていくことが大切であり、市と市民が協力しながら推進施策を進めていくため、市と市民の情報交換や意見交換の場が必要です。そうした場を、協議機関・連携協力機関として生涯学習推進体制の中に充実させていきます。

### 主な施策の方向

- (1) 推進体制の充実
- (2) 基盤づくり



### Ⅲ 青梅市事業計画一覧

No.	事業名	所管課等	頁
<b>1 生涯学習の基礎づくり</b>			23
<b>(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実</b>			
1	【名称変更】母親（両親）学級	健康課	24
2	乳幼児健康相談	健康課	
3	両親学級	健康課	
4	子育てひろば事業	子ども家庭支援課	
5	子育て支援事業	子ども家庭支援課	
6	親子のスキンシップを図る教室	社会教育課	
7	家庭教育学級	社会教育課	
8	おはなし会	中央図書館	
9	子ども読書活動推進事業講演会	中央図書館	
10	ブックスタート事業	中央図書館	
<b>(2) 小・中学校教育の充実</b>			
11	教員研修	指導室	24
12	教育研究支援	指導室	
13	教科指導等の充実	指導室	25
14	進路指導の充実	指導室	
15	生徒指導の充実	指導室	
16	相談機関の充実	指導室	
17	適応教室の充実	指導室	
18	情報教育の推進	指導室	
19	芸術・技術教育の支援	指導室	
20	スポーツ教育の振興	指導室	
21	特別支援学級の運営	教育指導担当	
26			
<b>(3) 家庭・学校・地域の連携</b>			
22・23	P T Aの活動への支援	市民センター・社会教育課	26
24	協働事業の支援	市民活動推進課	
25・26	青少年対策地区委員会事業への支援	市民センター・子ども家庭支援課	27
27・28	青少年委員活動	市民センター・社会教育課	
29	青少年問題協議会	子ども家庭支援課	
30	子ども会・保護者会等の学習活動への支援	社会教育課	
31	放課後子ども教室	社会教育課	28
32	職場体験事業	中央図書館	
33・34	地域人材の活用	指導室・社会教育課	
<b>2 生涯学習の場と機会の拡充</b>			29
<b>(1) 施設の整備と有効活用</b>			
35	学校体育施設開放	スポーツ推進課	29
<b>(2) 豊かに生きるための学習機会の充実</b>			
36	公共施設見学会	秘書広報課	29
37	福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢介護課	
38	地域保健福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢介護課	
39	敬老会	高齢介護課	
40	観梅市民まつり	商工観光課	
41	後援等協力事業	商工観光課	
42	昭和レトロ商品博物館	商工観光課	
43	青梅赤塚不二夫会館	商工観光課	
44	シイタケ栽培講習会	農林課	
45	青梅市農業祭	農林課	
30			

No.	事業名	所管課等	頁
46	16ミリ発声映写機・ビデオプロジェクター操作講習会	社会教育課	30
47	成人式	社会教育課	
48	掌理団体定期演奏会等	社会教育課	
49	市民大学	社会教育課	
50	農業食育体験教室・ふれあいまつり販売体験	社会教育課	
51	豊かに生きるための教室・講座等の企画運営	社会教育課	31
52・53	生涯学習フェスティバル（釜の淵新緑祭）	社会教育課・文化課	
54	展示活動（郷土博物館）	文化課	
55	郷土博物館講座	文化課	
56	文化財の調査保護	文化課	
57	文化財の紹介・普及	文化課	
58	実技講座（美術館）	文化課	
59	常設展（美術館）	文化課	32
60	特別展・企画展（美術館）	文化課	
61	ビエンナーレOME	文化課	
62	美術講演会	文化課	
63	市民映画会	文化課	
64	市民劇場	文化課	
65	中央図書館講座等	中央図書館	
66	工作及び手芸教室	中央図書館	33
67	上映会	中央図書館	
68	明るい選挙推進講演会	選挙管理委員会	
69	親子農業体験会	農林課	34
70	本物にふれる会	吹上中学校	
71	ますつりにチャレンジ	青梅市青少年委員協議会	
72	集まれおうめっ子	青梅市青少年委員協議会	
<b>(3) 共に生きるための学習機会の充実</b>			
73	平和の写真展の開催	秘書広報課	34
74	国際交流活動支援	秘書広報課	
75	通訳ボランティア	秘書広報課	
76	男女平等講座の開催	企画政策課	
77	女性の就業への支援	企画政策課	
78	老壮大学	市民センター	35
79	社会を明るくする運動	福祉総務課	
80	家庭介護DVDの貸出し	高齢介護課	
81	認知症サポーター養成研修	高齢介護課	
82	高齢者クラブ健康づくりモデル事業	高齢介護課	
83	家族介護教室	高齢介護課	36
84	手話通訳者養成研修事業	障がい者福祉課	
85	点字図書給付事業	障がい者福祉課	
86	身体障がい者自動車運転教習事業	障がい者福祉課	
87	相談支援事業	障がい者福祉課	
88	意思疎通支援事業	障がい者福祉課	
89	青梅市障がい者サポートセンター事業	障がい者福祉課	
90	中等度難聴児発達支援事業	障がい者福祉課	
91	国際理解講座	社会教育課	
92	ともに生きるための教室・講座の企画運営	社会教育課	
93	生涯学習まちづくり出前講座	社会教育課	37

No.	事業名	所管課等	頁
<b>(4) 健やかに生きるための学習機会の充実</b>			
94	各種体操教室	スポーツ推進課	37
95	青梅マラソン大会	スポーツ推進課	
96	有酸素運動普及事業	スポーツ推進課	
97	スポーツレクリエーションフェスティバル	スポーツ推進課	
98	市民体育大会	スポーツ推進課	
99	奥多摩溪谷駅伝競走大会	スポーツ推進課	
100	屋内温水プール開放事業	スポーツ推進課	38
101	介護予防講演会	高齢介護課	
102	自主グループ育成支援	高齢介護課	39
103・104	機能訓練	高齢介護課・健康課	
105	おうめ健康まつり	健康課	
106	健康教育	健康課	
107	健康相談	健康課	
108	おうめ健康塾	総合病院管理課	
109・110 111・112	健やかに生きるための教室・講座の企画運営	スポーツ推進課・高齢介護課 健康課・社会教育課	
<b>(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実</b>			
113	広聴活動	秘書広報課	40
114	交通公園日曜映画教室	市民安全課	
115	交通公園交通安全教室	市民安全課	
116	交通安全講習会	市民安全課	
117	セーフティ教室（交通事故再現方式）	市民安全課	
118	専門相談事業	市民安全課	
119	パネル展等	市民安全課	
120	消費者相談	市民安全課	
121	消費者研修会・セミナー	市民安全課	
122	市民のくらし展	市民安全課	
123	親水事業の拡充	環境政策課	41
124	市民環境講座	公園緑地課	
125	環境月間	環境政策課	
126	ごみ処理施設見学会	清掃リサイクル課	
127	【名称変更】市内一斉美化デー	清掃リサイクル課	
128	小学生ごみ減量化・資源リサイクル推進ポスターコンクール	清掃リサイクル課	
129	ごみ減量講座	清掃リサイクル課	
130	野鳥講座	農林課	
131	暮らしやすい環境のための教室・講座の企画	社会教育課	
131	暮らしやすい環境のための教室・講座の企画	社会教育課	
130	野鳥講座	農林課	
<b>3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から</b>			
<b>(1) 地域コミュニティ活動への支援</b>			
132	総合防災訓練	防災課	43
133	防災ハンドブックの作成・配布	防災課	
134	市民活動災害補償制度	市民活動推進課	
135	自主学习グループ支援	市民センター	
136	支会、体育振興会、自主防災地区委員会、高齢者クラブ等 各地域団体の支援	市民センター	
137	青梅型地域スポーツクラブ	スポーツ推進課	
138	地区市民運動会等支援	スポーツ推進課	44
139	環境美化大会	清掃リサイクル課	
140	資源回収の奨励	清掃リサイクル課	
141	社会教育関係団体補助	社会教育課	
141	社会教育関係団体補助	社会教育課	

No.	事業名	所管課等	頁
142	総合文化祭	文化課	44
143	落ち葉掃き等ふれあい活動	吹上中学校	
<b>(2) 地域人材の育成と活用</b>			
144	合同企業説明会in青梅	商工観光課	45
145	防災リーダーの育成	防災課	
146	子供会ジュニアリーダー講習会	市民センター	46
147	子供会育成指導者講習会	市民センター	
148	地域の特性を生かした事業	市民センター	47
149	スポーツ推進委員研修	スポーツ推進課	
150	シルバーマイスター制度	高齢介護課	46
151	吹上しょうぶ公園・梅の公園ガイドボランティア	商工観光課	
152	青梅市森林ボランティア育成講座	農林課	47
153	緑地管理ボランティア	公園緑地課	
154	青少年リーダー育成研修会事業	社会教育課	47
155	講師・指導者およびボランティア協力者・協力団体人材登録制	社会教育課	
156	芸術文化奨励賞	文化課	47
157	おはなし学習会	中央図書館	
158	絵本のべんきょう会	中央図書館	
<b>4 学習情報提供と学習相談の充実</b>			<b>48</b>
<b>(1) 学習情報提供の充実</b>			
159	広報おうめの発行	秘書広報課	48
160	男女平等情報紙	企画政策課	
161	インターネットホームページの充実	情報システム課	49
162	青梅税務署管内小学生による『税を考える週間』書道展	市民税課	
163	土砂災害対策の充実	防災課	49
164	市民センターだよりの発行	市民センター	
165	観光CD-Rの貸出し、観光テレフォンサービス	商工観光課	49
166	生涯学習だよりの発行	社会教育課	
167	市民企画講座の募集	社会教育課	49
168	社会教育事業の学校への周知	社会教育課	
169	図書館報の発行	中央図書館	49
170	ブックリストの配布	中央図書館	
171	分館図書館だよりの発行	中央図書館	
<b>(2) 学習相談の充実</b>			
172	学習相談	社会教育課	49
<b>5 生涯学習推進体制の確立</b>			<b>50</b>
<b>推進体制づくり</b>			
173	職員対象啓発事業	職員課	50
174	生涯学習推進本部	社会教育課	
175	生涯学習推進市民会議	社会教育課	

## 第2章

### 計画の進捗状況調査報告書

---



## 計画の進捗状況調査報告書

調査内容 事業内容と進捗状況

1 平成27年度取組状況

2 担当課評価

評価記号	評 価	評 価 基 準
◎	順調である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 効果的で優れた取組を行った</li> <li>・ 大きな成果を上げた</li> <li>・ 課題や問題点は一つもない</li> </ul>
○	おおむね順調である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 効果的な取組を行った</li> <li>・ 一定の成果を上げた</li> <li>・ 大きな課題や問題点はない</li> </ul>
△	一部困難な課題がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取組を行った</li> <li>・ 多少の成果を上げた</li> <li>・ 課題や問題点がある</li> </ul>
×	困難な課題がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取組を行わなかった</li> <li>・ 取組を行ったが成果は上がらなかった</li> <li>・ 大きな課題が残った</li> </ul>
—	事業終了 隔年実施	

事業計画	事業数	◎	○	△	×	—
1 生涯学習の基礎づくり	34	1	32	0	0	1
(1)乳幼児教育・家庭教育の充実	10	0	9	0	0	1
(2)小・中学校教育の充実	11	0	11	0	0	0
(3)家庭・学校・地域の連携	13	1	12	0	0	0
2 生涯学習の場と機会の拡充	97	2	90	3	0	2
(1)施設の整備と有効活用	1	0	1	0	0	0
(2)豊かに生きるための学習機 会の充実	37	1	34	1	0	1
(3)共に生きるための学習機 会の充実	21	0	20	1	0	0
(4)健やかに生きるための学習 機会の充実	19	1	17	1	0	0
(5)暮らしやすい環境のための 学習機会の充実	19	0	18	0	0	1
3 自主活動の支援	27	0	26	0	0	1
(1)地域コミュニティ活動への 支援	12	0	11	0	0	1
(2)地域人材の育成と活用	15	0	15	0	0	0
4 学習情報提供と学習相談の充実	14	0	14	0	0	0
(1)学習情報提供の充実	13	0	13	0	0	0
(2)学習相談の整備	1	0	1	0	0	0
5 生涯学習推進体制の確立	3	0	3	0	0	0
(1)推進体制づくり	3	0	3	0	0	0
合 計	175	3	165	3	0	4
割 合 (%)	100	1.7	94.3	1.7	0	2.3



基本的施策

1生涯学習の基礎づくり

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由	
(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実	健康課	1	【名称変更】母親(両親)学級	初産の妊婦を対象に安心して出産ができるよう親となる心構えを伝え、妊娠中の不安を解消します。	健康センターにおいて、母親(両親)学級を実施した。 ・4日間コース 年2回実施 延べ参加人数 72人 ・5日間コース 年6回実施 延べ参加人数 282人	○	平成27年度から、夫も参加しやすいよう母親学級と両親学級を統合して母親(両親)学級とした。そのため各コースを1日分追加して4日間と5日間コースの教室に変更にした。なお、どちらの最終日も両親で参加しやすい土曜日に実施した。
	健康課	2	乳幼児健康相談	健康・栄養・歯科および育児に不安がある乳幼児に対し、小児科医師等が専門的な立場から適切な指導助言を行い、保護者の育児を支援します。	健康センターにおいて、以下の相談事業を実施したほか、電話での各種相談にも対応した。 ・医師による乳幼児健康相談 年24回実施 延べ件数 399件 ・健康センター専門職による乳幼児健康相談 年12回実施 延べ件数271件 ・心理相談員による子ども発達相談 年60回実施 延べ件数320件	○	気軽に相談が出来る場として、健診や新生児訪問時に御案内している。相談内容は、計測のみの利用から、育児・栄養・歯科に関する相談を行うことにより育児における不安解消の一助になっている。 また、心理相談員が1歳6か月児健診等の健診結果や言葉の遅れや行動等に関する相談にのることで、保護者の不安解消の一助になり、今後のサポートにつなげることが出来た。
	健康課	3	両親学級	妊娠16週から27週までの妊婦と夫を対象に、赤ちゃんの育て方、あやし方、お風呂の入れ方等について指導し、父親の子育て参加を促します。	平成27年度より、母親学級と事業統合した。	-	
	子ども家庭支援課	4	子育てひろば事業	保育所の機能・スペースを活用して、ふれあいの場を提供し、日常的で身近な問題について、保護者・子どもから相談を受け、話し相手になります。また、啓発事業を実施します。	・15箇所の保育園、永山ふれあいセンターおよび青梅こども未来館で実施した。 ・保育園を開放し、誰でも参加できるふれあいの場を提供した。 ・育児講座を開催。 ・親子参加行事を開催。 ・相談業務を行った。	○	育児講座などを行い子育て中の保護者へ積極的に情報を提供することができたため。また、相談業務で子育ての悩み等の相談を受け、子育て中の悩みの解決に向け一定の効果を上げることができたため。
	子ども家庭支援課	5	子育て支援事業	青梅市子育て支援センターなど、子育てと子どもの健やかな成長を支援する場を提供するとともに、講座等を行います。	・市内の各市民センター、子育て支援センターおよび下長洲自治会館で事業を実施した。 ・手遊び型の事業では和室や会議室などで、絵本や積み木などを使った遊びを行った。 ・体育型では体育館でボールや縄跳びなどを使った遊びを行った。 実施回数 634回 延べ参加人数 12,224人	○	市民センターで行うことにより、市民が気軽に利用できる子育ての場を提供することができたため。また、講師が広場にいることによってはじめての利用者にも利用しやすい雰囲気を作ることができたため。
	社会教育課	6	親子のスキンシップを図る教室	「親子スキンシップ教室」、「ちびっこひろば」等、親子のスキンシップを図る教室を開催します。	全8回の教室を10教室、全12回の教室を1教室、体験型イベントを1回実施した。 ・親子ふれあいスクール 全8回(河辺市民センター・432人) ・ちびっこひろば 全12回(長洲市民センター・524人) ・親子スキンシップ教室 全8回 青梅メロン(天ヶ瀬体育館・釜の淵市民館・354人) 成木たんぼぼ(成木市民センター・153人) 新町うさぎ(新町市民センター・248人) 今井いちご(今井市民センター・280人) 新町もも(新町市民センター・260人) 青梅りんご(釜の淵市民館・274人) 梅郷こぐま(梅郷市民センター・184人) 大門パンダ(大門市民センター・269人) 東青梅すみれ(東青梅市民センター・276人) ・ちびっこランド(総合体育館・78人)  ※括弧内の人数は教室の延べ参加人数 合計 3,332人	○	前年度に実施した一部の教室について、実施場所や対象年齢を変更し、市民のニーズにあった教室を実施することができた。今後も適宜、教室の開催場所や対象年齢等の見直しを行う必要がある。
	社会教育課	7	家庭教育学級	主に乳幼児から中学生を持つ親を対象に、家庭教育に関する様々なテーマで開催します。	家庭教育講演会 ・第1回 メタボを予防！～健康な体をつくる食生活と食卓～ 実施日 10月3日 参加人数 36人 ・第2回 子どもはいついっ何を考えてるの？～子どもの気持ちに寄り添うハッピーな子育て～ 実施日 1月16日 参加人数 33人 ・第3回 叱ればいいのか？受け止めればいいのか？～子どもの感情を育てるといこと～ 実施日 3月12日 参加人数 55人	○	毎回テーマを変えて3回の講演会を行った。また、乳幼児の保護者も参加しやすいよう全回で託児保育を実施した。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実	中央図書館	8 おはなし会	絵本の読み聞かせやおはなしの語りなどをを行います。	・4月3日から3月26日まで延べ61回、中央図書館・市民センター・小学校でおはなし会を実施した。延べ参加人数 1,730人 ・平成27年度においても、紙芝居のおはなし会を実施した。 8月23日・12月27日の延べ6回 延べ参加人数 123人	○	1年を通じて事業を実施し、多くの参加者を得ることができた。今後も各事業の開催回数や内容の充実を図ることが課題である。
	中央図書館	9 子ども読書活動推進事業講演会	子どもの読書活動を推進するための講演会などを実施します。	11月21日に「羽村市在住絵本作家 内田麟太郎氏講演会」を開催した。 参加人数 58人	○	内田麟太郎氏の講演会を開催することができ、参加人数も58人と好評であった。
	中央図書館	10 ブックススタート事業	乳幼児健診時において、希望する保護者に対し、絵本の読み聞かせ等の相談とブックスタート・リーフレットの配布を実施します。	健康課との共催で、乳幼児に対する絵本の配布と、4月1日から3月16日までの延べ24回、乳幼児健診時において、絵本の紹介とブックスタート・リーフレット「あかちゃんといっしょに」の配布を行った。中央図書館で行う乳幼児向けおはなし会の案内も行った。延べ参加人数 667人	○	1年を通じて事業を実施し、667人の参加者を得ることができた。
(2) 小・中学校教育の充実	指導室	11 教員研修	教員の資質や能力の向上を図るため、職層や教職経験に応じた研修、専門的研修を実施します。	校長研修 2回 副校長研修 2回 教務主任会 8回 生活指導主任会 11回 若手教員育成研修1年次10回 若手教員育成研修1年次(宿泊研修)1回 若手教員育成研修2年次 4回 若手教員育成研修3年次 4回 市内視察研修 1回 中学校進路指導主任会 3回 新任主幹教諭研修 1回 人権教育研修 6回 学校教育相談研修 1回 情報セキュリティ研修 4回 特別支援教育理解研修 2回 教育経営研修 1回 情報教育推進委員会 3回 水泳指導研修 1回 普通救命講習 1回 教育課題研修 2回 10年経験者研修 10回 特別支援教育コーディネーター研修 3回 小学校外国語活動研修 2回 食育リーダー連絡会 3回 柔道(武道)研修 1回	○	予定したとおりの回数を実施できた。内容については、現在の教育課題である。
	指導室	12 教育研究支援	教育課題の解決、教科指導法の改善等の研究を支援し、より良い学校教育を目指します。 ・研究指定校、教育研究会、校内研修に対する支援	・研究指定校等への支援 小・中学校合わせて6校の研究を支援した。 ・教育研究会への支援 小学校5組・中学校4組が研究成果を発表した。 ・校内研修に対する支援 担当指導主事を中心に年間100回程度の指導訪問を実施した。	○	各校の研究を支援し、教員の資質向上が図れた。
	指導室	13 教科指導等の充実	1 東京都の学力状況調査において青梅市の平均点が東京都の平均を上回ることを目標に、指導等を充実します。 2 いじめの根絶に向け、人権教育・道徳教育を充実します。 3 外国人英語指導助手(AET)を活用し、小・中学校の英語教育、国際理解教育を推進します。 4 地域社会・地域環境の理解を深め、社会の一員としての自覚を育てます。 5 児童・生徒の学力向上を図るため、市民センター等を拠点として、地域の人材をコーディネーターや指導者として活用し、土曜日に補習教室を実施します。	・国語、算数、数学の基礎的な学力の定着を図るため「青梅サタデースクール」を21校で実施した。 ・算数、数学の基礎的な学力の定着を図るため、東京都の委託事業「学力ステップアップ推進地域指定事業」を26校で実施した。 ・英語教育、外国語活動を目的にAETを全校に派遣した。(年間1,210日程度) AET担当者会を4回、小学校外国語活動中核教員研修会を2回実施し、AETの効果的な活用と指導についてを協議した。 ・副読本の活用と資料集の作成・活用 小学校3年生を中心に年間指導計画に位置付け、副読本を活用した授業を実施。 ・学力向上推進委員会を5回、道徳教育推進委員会を4回実施し、教員の資質向上を図った。	○	国の補助金や都の委託を受け、土曜日や放課後の教育課程外の教育環境を整備した。  土曜日の学習 市の予算のみで実施していた「青梅サタデースクール」(年間20回)について、国および都の補助金を受けられることとなり、会場を2か所から10か所に拡充することができた。 放課後学習 市からの交付金により一部の学校が実施していた放課後の補習教室について、都の委託「学力ステップアップ推進地域指定事業」を受けられることとなり、東小・中を除く26校で実施することができた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 小・中学校教育の充実	指導室	14 進路指導の充実	生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自分の意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を育てます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導主任会を年3回実施し、各学校におけるキャリア教育の円滑な推進について協議・研修した。</li> <li>中学生を対象に、3日間の職場体験活動を実施し、勤労観や職業観を育成した。</li> </ul>	○	進路指導およびキャリア教育を推進する中で、社会的自立・職業的自立に向けて必要な意欲・態度や能力を育てることができた。
	指導室	15 生徒指導の充実	豊かな人間性と社会性を育成するために、児童・生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を高め、公共心をはぐくみます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導主任会を年間5回実施し、情報交換や連携を深めた。</li> <li>中学校生活指導主任連絡協議会を年間6回実施し、関係機関との情報交換や連携について協議した。</li> </ul>	○	生活指導主任会や中学校生活指導主任連絡協議会での情報交換や他機関との連携を図りながら、豊かな人間性と社会性を育む取組を推進することができた。
	指導室	16 相談機関の充実	1 教育相談所 幼児・児童・生徒や保護者から、学校生活や家庭における問題、悩みについて相談に応じ、援助・助言を行います。 2 青少年相談室 青少年や保護者から、生活指導や性格、行動等の問題、悩みの相談に応じ、青少年等の非行防止と健全育成を図ります。 3 スクールソーシャルワーカーおよび心理相談員の派遣などにより、青梅市公立学校相談室と教育相談所等の連携を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談所「青梅市いじめの防止に関する条例」にもとづき開催した「青梅市いじめ問題対策連絡協議会」および「青梅市教育委員会いじめ問題対策委員会」において、教育相談所の職員が委員として出席し、連携について協議した。</li> <li>スクールソーシャルワーカー2人による家庭訪問などを行い、47件の事例に対応した。</li> <li>相談所における来所相談件数は年間432件で電話相談は60件。面談回数は、保護者2,184回、子供818回で合計3,002回であった。</li> <li>青少年相談学校や都教育相談センター、保健所などの関係機関と連携しながら課題解決に努めた。</li> <li>スクールカウンセラーとの連携東京都が市内全小・中学校にスクールカウンセラーを配置しており、教育相談所のスクールソーシャルワーカー等を介し、連携を図った。</li> </ul>	○	教育相談所心理相談員の学校巡回により、学校のスクールカウンセラーとの情報交換が実施でき、いじめ関係の委員会から学校現場までの連携体制の充実が図れた。
	指導室	17 適応教室の充実	1 ふれあい学級 不登校児童・生徒に対し、生活習慣の確立および学習等の援助を行い、在籍校への復帰を支援します。 2 外国人児童・生徒学級 外国人児童・生徒および帰国児童・生徒に対し、日本語の指導を行い、安心して学校生活を送れるよう援助します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>適応指導教室(ふれあい学級)不安や悩みについての教育相談や習熟の程度に応じた学習指導を行うとともに、施設見学や料理教室の体験学習を3回実施した。</li> <li>また、手作業で玄米を精米にする体験や植物栽培を行った。</li> <li>外国人児童・生徒学級在籍児童・生徒数7人に対し、週2回の指導を実施した。</li> </ul>	○	保護者の不安な気持ちに寄り添い、事前の面談の充実を図った。また、児童・生徒の実態に応じて支援ができるよう、学校との情報共有を密にした。
	指導室	18 情報教育の推進	児童・生徒の情報活用能力を育成し、確かな学力の向上を図るために、教科指導におけるICTの活用を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校1校へのタブレット端末先行導入およびメールサーバ等の更新により、教科指導・校務環境を整備した。</li> <li>小学校低学年では、基本的な操作の習得学習を行った。</li> <li>小学校高学年および中学校では、各教科および総合的な学習の時間等におけるICTを活用した調べ学習やレポート作成を行った。</li> </ul>	○	画面展開や動画により、より分かりやすい授業の工夫を発見することができた。タブレットを含めて配付されているICT機器の有効活用が促進された。教員各自においてもICTスキルを向上させることができた。
	指導室	19 芸術・技術教育の支援	「小学校造形作品展」、「中学校美術展覧会」、「中学校技術・家庭作品展」を開催し、児童・生徒の豊かな心情の陶冶や芸術・技術能力の向上を図るとともに、広く市民に教科への理解を得ます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校造形作品展 会期 1月30日～1月31日 会場 青梅市立美術館</li> <li>中学校生徒美術展 会期 1月21日～27日 会場 中央図書館多目的室</li> <li>中学校技術・家庭科作品展 会期 2月13日～17日 会場 西友河辺店ポッパルトホール</li> </ul>	○	作品展等に向けて、作品を製作する過程において自分なりに表現方法を工夫するなど豊かな情操を育むことができた。また、作品展等を通して、自分の作品や他の作品の鑑賞する中で、豊かな心情を養うことができた。
	指導室	20 スポーツ教育の振興	「中学校陸上競技大会」「中学校球技大会」「中学校駅伝大会」の開催を通して、精神力や体力を磨けるよう支援します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校体育連盟各部との連絡・調整を図りながら、会場確保等の事務を行った。</li> <li>中学校総合球技大会 実施期間 8～9月 会場 市民球技場ほか</li> <li>中学校駅伝競走大会 実施日 11月11日 会場 明星大学敷地内特設コース</li> <li>中学生東京駅伝大会への参加 実施日 2月7日</li> </ul>	○	7月の「中学校陸上競技大会」は悪天により中止したが、11月の「中学校駅伝競走大会」では、例年どおり明星大学青梅校を借用し、運動施設だけとなったことによる路線バスの減少に対応した。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由	
(2) 小充・中学校教育	教育指導担当	21 特別支援学級の運営	児童・生徒の障害に応じたきめ細かな教育を実施していくため、教育環境の整備を図ります。特別支援学級設置校に介護員を配置します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育環境の整備 東京都の制度改正に伴い、情緒障害等通級指導学級が廃止され、全公立小学校に特別支援教室を導入することとなった。 市内小学校(東小を除く)への特別支援教室の導入にあたり、平成29年度に設置する小学校6校の選定をした。</li> <li>・介護員の配置 特別支援学級(固定)における児童・生徒の学校生活および学習活動の補助ならびに教員の教育活動を支援するために特別支援学級介護員(小学校19名 中学校16名)を配置した。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育環境の整備 都教育委員会の計画に沿って、青梅市での導入計画を検討した。</li> <li>・介護員の配置 特別支援学級(固定学級)に在籍する児童・生徒数の増加にともない、昨年度より5名多い35名(小学校19名・中学校16名)の介護員を配置し、児童・生徒への指導の充実を図った。</li> </ul>	
	市民センター	22	会議室の提供、用具・備品等の貸出しなど	PTAが主催する講演会や研修視察等に対し、会議室の提供、用具・備品等の貸出しなどの支援を行った。	○	希望する日時に提供でき、PTA活動支援のため、一定の成果を上げることができた。	
	社会教育課	23	PTAの活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中PTAが主催する講演会や研修視察等に対する援助を行い、子どもたちの健全な成長を目指して、親と教師が協力して家庭・学校・地域の教育力の向上を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校・中学校のPTA活動を支援した。</li> <li>・PTA連合会主催講演会の支援を行った。</li> <li>・用具・備品の貸出しを行った。</li> </ul>	○	青少年健全育成備品の貸出しや、PTA活動、講演会の支援を継続的に実施したため。
(3) 家庭・学校・地域の連携	市民活動推進課	24	協働事業の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政と市民活動団体との協働事業を、青梅ボランティア・市民活動センターと連携して支援・推進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青梅ボランティア・市民活動センターは、ボランティア・市民活動団体に関する総合的な相談窓口を設置し、情報の収集および発信、ニーズのコーディネート等、行政と市民活動団体との協働を推進している。</li> <li>月1回の情報交換会を通して、協働事業や市民活動団体の活動状況等について情報共有した。</li> <li>市民提案協働事業募集の周知等を青梅ボランティア・市民活動センターからも行うなどの連携を図った。</li> <li>青梅ボランティア・市民活動センター職員が青梅市協働事業市民推進委員会委員として、協働事業の評価等について協議を行った。</li> </ul>	○	平成27年度も様々な事業を通じて、青梅市における協働事業の推進を図ったため。
	市民センター	25	青少年対策地区委員会事業への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>青少年の健全育成を目指して実施する様々な青少年対策事業に支援協力を行います。「健全育成チラシ」の配付、「健全育成標語看板」の作製などを行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青少年対策事業の事務的支援および会議室の提供、備品の貸出等を行った。(各市民センター)</li> <li>・ティーボール大会、青梅っ子わいわいフェスタ、ミニ青梅マラソン大会、青梅地区親子ふれあい綱引き大会(青梅C)</li> <li>・親子ふれあい綱引き大会(長淵)</li> <li>・球技大会、親子綱引き大会、社会を明るくする運動、霞川清掃(大門C)</li> <li>・梅郷子ふれあい塾、講演会、綱引き講習会&amp;キンボール教室、防犯パトロール(梅郷C)</li> <li>・ジュニアリーダーキャンプ教室、青少対、小中PTAで行う3団体講演会(小曾木C)</li> <li>・ジュニアリーダーキャンプ教室、流しそめん&amp;マストかみ取り体験教室、少年少女マラソン大会(成木C)</li> <li>・親子ハイキング、青少年球技大会、親子ふれあい綱引き大会青少年健全育(東青梅C)</li> <li>・ドッジボール大会、マス釣り体験教室、天体観測会、親子芋掘り教室、スプリングコンサート(新町C)</li> <li>・多摩川1万人の清掃大会参加、体験講座じゃが芋堀大会、健全育成立て看板の設置、防犯パトロール、親子ふれあい綱引き大会(河辺C)</li> <li>・少年少女球技大会、社会を明るくする運動講演会、ふるさとまつり2015のゲームコーナー・ふれあい動物まつり(今井)</li> <li>・青少年健全育成チラシを作成し、地区内自治会、子ども会育成会に配布した。また、健全育成立て看板の作製をし、地域内に設置するための支援を行った。(各市民センター)</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務的、人的協力をし、各種行事の開催がスムーズに運ぶよう協力することが出来た。</li> <li>青少年活動として各活動とも人気も高く喜ばれており、地域の方々の繋がりにも寄与している。</li> <li>青少年健全育成のため、各種事業への支援、協力をし、一定の成果を上げることができた。</li> <li>また、チラシや看板の作製を行い、青少年健全育成活動を地域ぐるみで取り組むことの大切さを啓発することができた。</li> </ul>
	子ども家庭支援課	26		<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区における青少年の健全育成事業の推進を図るため、青少年対策各地区委員会に対し、補助金を交付した。</li> <li>補助金交付額計:2,100千円</li> <li>・「青少年健全育成チラシ」の配布を行った。</li> <li>・第14回青梅市親子ふれあい綱引き大会を開催した。参加チーム数:79チーム、参加者数:1,600人(応援者を含む。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金の活用により、青少年対策各地区委員会において、青少年の健全育成を目的とした各種事業が実施されていることについて、事業実績報告書により確認した。</li> <li>・「青少年健全育成チラシ」を、全小・中学生および関係機関に配布するとともに、自治会回覧を行い周知に努めている。</li> <li>・親子ふれあい綱引き大会への参加チーム数については微減傾向にあるが、市内全地区から応援者を含み昨年同様の参加者があり、開催の目的が概ね達成されている。</li> </ul>	○	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(3) 家庭・学校・地域の連携	市民センター	27	青少年が地域で健やかに成長できるよう、学校等とも連携し余暇指導、青少年指導者への協力および青少年団体の指導育成を行います。	<p>青少年が地域で健やかに成長できるよう、余暇指導、青少年指導者への協力を行った。(各市民センター)</p> <p>青梅市優良青少年団体表彰について、青少年対策青梅地区委員会の役員(青少年委員)を通じて、地区内子供会の推薦を行った。(青梅C)</p> <p>青少年委員の協力のもと青少年の指導育成事業としてジュニアリーダー講習会を実施した。(長淵C、小曾木C、東青梅C、新町C)</p> <p>キャンプ教室(1泊2日)を支援・協力した。(小曾木C、成木C共催)</p>	○	<p>推薦した子供会は優良青少年団体として表彰され、日ごろの活動の評価につながったため。(青梅C)</p> <p>青少年の育成の支援の一つとして、地域内のジュニアリーダーの養成を支援し、もって地域の青少年の健全育成を図る取り組みを支援している。</p>
	社会教育課	28	青少年委員活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例会12回(毎月第二火曜日)</li> <li>・委員研修 実施日 11月29日 会場 高尾の森わくわくビレッジレクリエーション活動研修を実施した。</li> <li>・多摩第3ブロック研修 実施日 10月18日 会場 日の出町役場 そば打ち・竹細工体験を実施した。</li> <li>・青少年リーダー育成研修会への協力</li> <li>・成人式への協力</li> <li>・自主事業の実施</li> </ul>	○	<p>各地域においてジュニアリーダー講習や子供会等に協力し青少年活動の指導を行った。また、定例会を開催し、各地域での活動報告や自主事業の企画等を話し合った。青少年の余暇指導のため各種研修を実施した。自主事業を2回実施した。青少年委員の周知を図るため広報紙「みらい」を発行した。</p>
	子ども家庭支援課	29	青少年問題協議会	<p>青少年の健全育成を目指して青少年健全育成基本方針の策定や様々な支援協力を行います。「健全育成チラシ」や「休みのしおり」の作成などを行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28～30年度青少年健全育成基本方針を策定した。</li> <li>・「青少年健全育成チラシ」を作成し、小・中学校、各市民センター、関係機関等に配付するとともに、全ての自治会に回覧を依頼した。また、「休みのしおり」を3回発行し小・中学校の児童・生徒に配布した。</li> <li>・協議会を以下の内容により2回開催した。</li> </ul> <p>【実施日：7月9日】 平成26年度青少年健全育成活動状況について 平成28～30年度青少年健全育成基本方針(案)について 平成27年度青少年健全育成活動計画について 平成27年度青少年健全育成環境整備対策について 最近の少年非行について 情報交換</p> <p>【実施日：2月22日】 平成26年度青少年健全育成活動状況について 平成28～30年度青少年健全育成基本方針(案)について 青少年健全育成チラシについて 最近の少年非行について 情報交換</p>	○
社会教育課	30	子ども会・保護者会等の学習活動への支援	子ども会・保護者会等の学習活動に対する支援を行い、青少年の健全育成を図ります。	<p>用具・備品の貸出を行った。 子ども会への貸出し備品数は36件。</p>	○	<p>用具の貸出しのみならず、老朽化した備品については貸出し状況を勘案しつつ、順次更新を行った。</p>

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(3) 家庭・学校・地域の連携	社会教育課	31 放課後子ども教室	スポーツや文化活動やさまざまな体験活動、地域住民との交流活動などを実施します。学ぶ意欲のある子どもにも、学習機会を提供します。	今井小学校を新規開設校とした計10校で、おうめ放課後子ども教室「夕やけランド」を実施した。また、各教室では放課後児童クラブと月1回程度の一体・連携開催を実施した。 ・第二小学校(全36回) バドミントン、ボール遊び、工作、自主学習ほか 延べ参加人数 2,721人 ・第三小学校(全27回) バドミントン、縄跳び、工作、フラフープ、サッカーほか 延べ参加人数 1,443人 ・第四小学校(全36回) 自主学習、工作、紙芝居、卓球、サッカーほか 延べ参加人数 2,926人 ・第五小(全117回) 自主学習、工作、うし絵、バドミントン、フリスビー、サッカー、ドッジボールほか 延べ参加人数 5,699人 ・第六小(全31回) 自主学習、折り紙、テニス、バドミントン、ボール遊び、サッカーほか 延べ参加人数 1,069人 ・第七小(全105回) 自主学習、工作、卓球、ドッジボール、バドミントン、サッカー、一輪車ほか 延べ参加人数 4,491人 ・河辺小(全22回) 自主学習、工作、ドッチビー、けん玉、バスケットボールほか 延べ参加人数 1,428人 ・霞台小(全27回) 自主学習、折り紙、囲碁道場、サッカー、バドミントン、ビーチボール、野球ほか 延べ参加人数 1,202人 ・友田小(全34回) 自主学習、バスケットボール、サッカー、カードゲーム、バドミントンほか 延べ参加人数 2,101人 ・今井小(全25回) 自主学習、工作、フラフープ、ドッジボール、ドッチビーほか 延べ参加人数1,218人	○	新規校については、6月から開始し、順調に実施することができた。また、放課後児童クラブとの一体・連携開催についても各教室で月1回程度の実施を行うことができた。
	中央図書館	32 職場体験事業	職場体験学習として市内の中学生、高校生を受け入れ、図書館業務全般を体験します。	6月23日から2月23日にわたり、市内の中学生および高校生を受け入れ、図書館業務全般について、体験学習を実施した。 中学校 8校 27人、高等学校 2校 21人	○	各学校からの要望により、中学校および高等学校を合わせて全10校、48人の生徒を受け入れた。
	指導室	33 地域人材の活用	地域の優れた人材を掘り起こし、地域と学校が連携協力し、子どもたちの健全育成に活用します。	地域人材をゲストティーチャーとして、総合学習、放課後の補習などを行った。 また、保護者等のボランティアにより、図書室の整備等が行われた。	◎	「青梅サタデースクール」では、会場を2カ所から10か所に拡充することに伴い、校長が卒業生や地域の方などを支援員として推薦。地域人材を昨年度の12人から46人に増員した。 また、放課後等の補習では、新たに都の委託事業「学カステップアップ推進地域指定事業」を受け、26校が延べ144人の地域人材を配置した。 地域と学校がより一層の連携を図り、地域人材を効果的に活用できた。
社会教育課	34		地域の人材を放課後子ども教室で活用した。親子での文化体験や生涯学習推進市民会議企画の講座等の講師として活用した。	○	親子で楽しく文化体験！「メタルエンボシングアートに挑戦！」「和菓子作り」の講座で講師として活用した。	

2 生涯学習の場と機会の拡充

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 施設の整備と有効活用	スポーツ推進課	35 学校体育施設開放	生涯スポーツの普及・発展、市民の健康と体力の増進を図るため、小・中学校の体育施設(校庭・体育館)を市民スポーツ団体の利用に供します。	登録団体 217団体 利用回数 6,264回 利用人数 166,044人	○	市内の団体への貸出を行うことで、レクリエーションの場としての施設の活用を図った。利用団体への利用に関するマナーの徹底や近隣住民への事業実施に関する理解促進について課題が残る。
	秘書広報課	36 公共施設見学会	市内の公共施設等の状況を見て、考えていただく機会を提供するため、市民を対象に実施します。	中央図書館、市立美術館の見学会を行った。 実施日 8月6日、3月12日 参加人数 20人	○	公共施設の設置目的や機能、サービスの内容について、市民の関心を喚起し、理解を促すことができた。
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	高齢介護課	37 福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢者が趣味を広げ、教養を深められるよう各種講座を開催します。活動の成果を発表する場として、高齢者教養講座合同文化祭を開催します。	高齢者教養講座を5講座実施した。 詩吟 年24回 14人 毛筆 年18回 29人 ペン習字 年18回 32人 茶道 年24回 10人 華道 年14回 3人 平成27年度高齢者教養講座合同文化祭開催 会場 福祉センター 参観者 224人	○	高齢者教養講座は、生きがいのある生活や高齢者の外出支援となっている。また、成果を発表する場である文化祭を開催することで、日々の活動に向上心を持つことができる。さらに、地域とのふれあいにつながり、高齢者活動のPRになっている。
	高齢介護課	38 地域保健福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢者の生きがい、健康増進、教養を高めることを目的に、沢井・小曾木保健福祉センターでは、各種教室を開催します。	高齢者教養講座を4講座実施した。 沢井保健福祉センター 茶道 年30回 5人 華道 年20回 8人 小曾木保健福祉センター 絵画 年37回 11人 合唱 年30回 42人	○	生きがいのある生活や高齢者の外出支援として効果的であったが、会員数はやや減少している。
	高齢介護課	39 敬老会	75歳以上の方を総合体育館に招待し、式典・演芸を行い、長寿をお祝いします。	75歳以上の高齢者を対象に敬老会を開催した。 開催日 10月3日(土) 会場 総合体育館 参加者 1,985人	○	地域高齢者のふれあい・親睦の場となっている。さらにその発表者や芸能人目当てに参加する高齢者の外出支援にもつながっている。
	商工観光課	40 観梅市民まつり	3月、「市の花」の梅が満開の吉野梅林において、俳句大会を始め様々なイベントを楽しみながら、自然に親しみ、参加者同士が交流を深めることができる機会として開催します。	平成26年5月に梅の公園の梅の木は全伐となったが、歴史ある「観梅市民まつり」を継承し、引き続き、多くの人が集まるイベントとして「梅の里再生市民まつり」を神代橋通りで実施した。 梅の里再生市民まつり 実施日 3月13日(日) 会場 神代橋通り 参加者 8,500人	○	昨年に引き続き、神代橋通りで「梅の里再生市民まつり」を実施し、親善大使に就任した「篠原ともえ」の紹介もできたため。
	商工観光課	41 後援等協力事業	青梅市の産業や観光を知り、自然に親しむ機会や参加者同士の交流が図れる機会として、産業観光関連のイベントに協力します。 ・産業観光まつり、カンタンを聞く会	・第48回青梅産業観光まつり 実施日 10月31日(土)、1日(日) 会場 永山公園グラウンド 参加者 39,000人 ・第60回カンタンをきく会 実施日 9月5日(土)～6日(日) 1泊2日 会場 御岳山 参加者 79人	◎	産業観光まつりは、前年度より多くの方に来場していただいた。カンタンをきく会は、第60回であり、参加者も多く、記念式典も実施できたため。
商工観光課	42 昭和レトロ商品博物館	商店街空き店舗活用推進事業として、平成11年に住江町に開館した博物館。昭和30～40年頃のお菓子や薬などの商品パッケージを中心に、昭和を彩った懐かしい商品文化をお楽しみください。2階には、小泉八雲作の「雪女」と関わりのある資料を展示。	・昭和レトロ商品博物館 入場者数 15,843人	○	商店街の活性化、空き店舗をなくすことを目的にされた商店街活性化事業であり、商店街の景観維持の意識やまちづくり意欲を高めるとともに、青梅中心市街地の観光スポットのひとつとして、来街者の集客に大きな効果があった。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	商工観光課	43 青梅赤塚不二夫会館	商店街振興事業として、住江町商店街振興組合が、青梅駅周辺商店街の賑わいを創出するため、平成15年10月に開館。 明治時代後期の蔵に昭和を代表する漫画家「赤塚不二夫氏」の原画や貴重な写真などを展示。	・青梅赤塚不二夫会館 入場者数 16,002人 ・青梅赤塚不二夫会館 12周年企画 ハッピーシェーぞんす! 実施日 11月1日～30日 会場 青梅赤塚不二夫会館 来場者 2,000人	○	青梅駅周辺商店街の中心的存在の赤塚不二夫会館を、特に赤塚不二夫アニメ関連のテレビアニメ放映時期に併せて大々的にPRすることにより、遠方からも青梅へ訪れる人が増え、住江町商店街のみならず、青梅市街地商店街の活性化に繋がった。
	農林課	44 シイタケ栽培講習会	農業への理解を深め、収穫の喜びを体験していただくための講習会を開催します。	開催日:2月27日 会場:花木園 内容:原木への種ごまの打ち込み、育成管理指導 指導:青梅きのこ生産振興会 参加人数:70人	○	例年募集人数に対して、応募が倍以上ある。参加者からは、講義と実習を通して、直接農業生産の仕組みを知ることができると好評を得ている。
	農林課	45 青梅市農業祭	市内の農畜産物の展示や直売などにより、農業への理解と関心を深めてもらうとともに、参加者同士のふれあいの場を提供します。	実施日 10月31日～11月1日 会場 永山公園総合運動場 内容 第48回青梅市農産物共進会(出品数270点)、農産物等の直売・半額セール	○	農産物の展示や直売などにより、地産地消の推進、農業への関心を深めてもらうことができた。
	社会教育課	46 16ミリ発声映写機・ビデオプロジェクター操作講習会	映写機の操作方法、映写方法、映写会場の作り方などを学ぶ講習会を実施します。	・ビデオプロジェクター操作講習会 6月12日、2月5日実施 計31人修了 ・16ミリ発声映写機操作講習会 10月4日実施 計4人修了	○	ビデオプロジェクター操作講習会は、6月12日は11名、2月5日は20名の参加があった。
	社会教育課	47 成人式	大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い、励まします。 1月第2月曜日(成人の日) 総合体育館ホール	実施日 1月11日 会場 総合体育館 出席者数 1,095人 新たな試みとして新成人インタビューを実施し、プロジェクターを通して会場内へ流した。	○	例年並の出席者数であった。新たな試みについては、会場を盛り上げることはできたが、新成人が早く会場内に入る効果を期待していたが、あまり効果はなかった。来年以降より一層の工夫を行う必要がある。式典は比較的静かに厳かに行われた。
	社会教育課	48 掌理団体定期演奏会等	・青梅児童合唱団定期演奏会 ・青梅市青少年吹奏楽団定期演奏会 ・青梅市民合唱団定期演奏会 ・ファミリーコンサート ・ミニコンサート	・市民合唱団 第50回記念 定期演奏会 実施日 12月13日 観客数 615人 ・青少年吹奏楽団 第46回 定期演奏会 実施日 10月10日 観客数 350人 ・児童合唱団 第38回 定期演奏会 実施日 9月13日 観客数 300人 ・3団体合同 第39回 ファミリーコンサート 実施日 4月19日 観客数 450人	○	各掌理団体の定期演奏会を行い、日頃の練習の成果を市民に発表することができた。一部の演奏会では観客数が少なかったため、今後は周知等を工夫する必要がある。
	社会教育課	49 市民大学	人文・社会科学・自然科学・産業技術・芸術文化・市民生活・国際関係等の中から現代的課題に対応する学習機会を提供していきます。	・大英博物館展—100のモノが語る世界の歴史関連文化講演会(160人) ・特別展始皇帝と大兵馬俑関連文化講演会(171人) ※括弧内は講座の延べ参加人数 合計 2講座 331人	○	NHKの美術展関連文化講演会を利用して、2講座実施した。どちらの講座も定員以上の多くの参加者を集めることが出来た。美術分野に限らず、様々な専門家の講座をバランスよく企画する必要がある。
	社会教育課	50 農業食育体験教室・ふれあいまつり販売体験	野菜の栽培や収穫、勝利までの作業を体験し、農作業への関心を持ち理解を深めることを目的に、半年間の体験教室を行います。ふれあいまつりに参加し、野菜の販売体験を行います。 ・東京都農林水産振興財団・青梅食育クラブ共催事業	農業・食育体験教室として全8回の講座を実施し、農業や食育について学んだ。また講座の中で河辺ふれあいまつりに参加し、講座で育てた野菜を販売する体験を行った。 農業・食育体験教室 延べ参加人数 386人	○	収穫以外の農作業を体験し、また作ることと食べることのつながりを学ぶために料理教室や試食だけではなく、販売体験も行った。参加者同士の交流をさらに促進し、体験活動の充実を図る。



施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	社会教育課	51 豊かに生きるための教室・講座等の実施	趣味を広げ、知識・教養を深め、参加者同士の交流を広げるため、人生を豊かにする教室・講座等を開催します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初心者菊作り講習会(27人)</li> <li>・大英博物館展—100のモノが語る世界の歴史関連文化講演会(160人)</li> <li>・親子で科楽！プラネタリウム見学会(48人)</li> <li>・夏のサイエンスキッズ4講座(155人)</li> <li>・飛び出せ！サイエンスファミリー(44人)</li> <li>・特別展始皇帝と大兵馬備関連文化講演会(171人)</li> <li>・福西崇史講演会(242人)</li> </ul> 青梅市生涯学習推進市民会議企画講座 ・ストーリーテラーと影絵劇～生きた影絵の物語～(134人) ※括弧内は講座の延べ参加人数 合計 11講座 981人	○	少年教育から成人教育まで幅広く行い、その形態も講演会形式、体験型など様々な形で行った。新たな試みとして、市民会議企画講座として体育館を使った影絵劇の事業を行った。今後も様々な講座をバランス良く企画する。
	社会教育課	52 生涯学習フェスティバル(釜の淵新緑祭)	新緑の釜の淵公園・郷土博物館・美術館・旧宮崎家・釜の淵市民館を生涯学習サークルの発表の場とし、楽しいイベントを通じた市民の交流の場とします。	生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2015～ 実施日 5月9日、10日 会場 釜の淵公園および周辺施設 延べ参加人数 3,195人 新たに、会場内で障がい者団体による飲食物販売を実施した。	○	39イベントを実施した。実行委員会形式による開催で、準備や片付けなども実行委員協力のもと行った。27年度から障がい者団体による飲食物販売を新たに実施した。飲食物の種類や協力団体など今後も調整を図る必要がある。
	文化課	53		郷土博物館、旧宮崎家住宅を会場として提供した。	○	5月9・10日両日も天候に恵まれ、例年よりも多くの来館者を得ることができた。
	文化課	54 展示(郷土博物館)	収蔵資料を中心に青梅市の歴史や自然を紹介する常設展、寄贈された民具や古文書を紹介する新収蔵品展、郷土の歴史や文化財をテーマとした企画展・特別展を開催します。	常設展「郷土のあゆみ」通年実施 「発掘体験塾発表会」4月11日～8月2日開催 観覧者数 7,242人 「戦時下の青梅」8月15日～10月4日開催 観覧者数 3,468人 「新収蔵品展2015」10月17日～11月23日開催 観覧者数 3,405人 「青梅の峠と坂」12月5日～1月31日開催 観覧者数 3,266人 「中世青梅の信仰と文化」2月7日～4月17日開催 観覧者数 4,596人	○	通常の企画展は年度間に3回実施であるが、今年度については展示期間の設定などに工夫を凝らし、4回の企画展を実施することができた。
	文化課	55 郷土博物館講座	郷土史関係の資料や展示資料を中心に講演会、解説講座を開催します。	「中世青梅の信仰と文化」関連講座「塩船観音寺の仏像」 実施日 3月21日 講師 山本 勉 参加人数 51人	○	募集人数を大きく上回る応募があり、抽選によって当選者を決定する結果となった。
	文化課	56 文化財の調査保護	市内の新たな歴史発掘のため、各種文化財等の調査を実施するほか、指定文化財の保存事業として、文化財所有者に対する修理補助を実施します。	○古文書調査:武蔵御嶽神社、御師家古文書調査 ○文化財保存修理補助事業 ・福島家住宅(外装・内装修理) 補助額 3,996千円 ・武蔵御嶽神社(拝殿・弊殿漆塗り替え修理) 補助額 11,756千円 ・馬場家御師住宅(茅葺屋根補修修理) 補助額 375千円	○	古文書調査については、平成7年から事業実施しており、平成27年度は調査最終年度となった。古文書は全てマイクロフィルム化し、報告書を刊行した。文化財保存修理補助事業においては、文化財所有者に納得いただける補助事業を行うことができた。
	文化課	57 文化財の紹介・普及	文化財等の解説を広報などに掲載します。また、市内の文化財を歩きながら見て回る事業を実施し、加えて文化財解説ボランティアを養成し、その解説活動を支援します。	青梅市広報の毎月15日号に「ふるさとの文化財」を掲載。「青梅市文化財ニュース」を毎月発行し、市民センター等で配布。「文化財指導員報告書」を毎年刊行し、郷土博物館にて販売を実施。その他、老壮大学等主催の各種講演会等に文化財保護指導員が講師として招かれており、文化財の普及活動に精力的に取り組んでいる。	○	文化財の説明等について、毎月15日号の青梅市広報に掲載することができた。また、年間4回実施している「わがまち青梅講座」には、たくさんの方の応募があり、抽選にて漏れてしまう人がいるほど人気であった。各種講演会を8回実施しており、いずれも大盛況であった。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2)豊かに生きるための学習機会の充実	文化課	58 実技講座(美術館)	絵画や版画の実技を通して、美術に親しんでいただきます。市民を対象に年2～3講座実施します。	実技講座 ・「石膏デッサン教室」(一般対象) 講師 平野健太郎氏(日本画家) 実施日 4月14日、16日 参加人数 35人 ・夏休み子ども向けワークショップ1「オイルパステルで描くズッキーニ」(小学生対象) 森裕介氏(臨床美術士、名古屋造形大学非常勤講師) 実施日 8月2日 参加人数 16人 ・夏休み子ども向けワークショップ2「オリジナルうちわ作り」(小・中学生対象) 塩野圭子氏ほか2名(青梅アート・ジャム出品作家) 実施日 8月9日 参加人数 23人 ・「木版画で年賀状を彫ろう」(一般対象) 鈴木ひろみ(木版画家) 実施日 12月6日 参加人数 12人	○	実技講座は教材調達の関係から応募制で実施したが、応募者はほとんどの講座が定員を上回る盛況ぶり、受講者の満足度も高かった。ただし、大人向けの実技講座に関しては、応募者の固定化や高齢化傾向が見られることから、新規の来館者獲得につながるような講座の開催も検討していきたい。
	文化課	59 常設展(美術館)	青梅市ゆかりの作家小島善太郎、藤本能道の作品を常時展示紹介します。	青梅市ゆかりの作家小島善太郎、藤本能道の作品をコレクションから適宜選り出し、常設展示コーナーに小島作品6点、藤本作品4点程度を展示した。また、企画展等の日程に合わせて、6回展示替えを行った。 ※市役所2階展示コーナーに小島善太郎、藤本能道の作品を展示した。年3回展示替えした。	○	展示替えを行うことによって、多くの収蔵作品を市民に紹介した。
	文化課	60 特別展・企画展(美術館)	一定のテーマに従い、画家や版画家の回顧展、分野や時代別の展覧会を開催します。(企画展は、館蔵品を活用し、一定のテーマに従って作品を選び出し、展示します。特別展は原則、他の美術館等から作品を借用して展示する展覧会で、隔年で開催します。共催展は、美術館と他団体との共催事業です。)	・企画展「詩情の水彩画～没後20年・宮前三春の世界～」1作家 50点 会期 4月11日～5月24日 観覧者数 1,237人 ・企画展「明星大学所蔵名品展」22作家 33点 会期 6月13日～7月12日 観覧者数 451人 ・企画展「湯河原を知る展～特別展を2倍楽しむ方法～」22作家 45点 会期 7月18日～9月6日 観覧者数 806人 ・特別展「町立湯河原美術館所蔵名品選～湯の町に集い育まれた美の饗宴～」9作家 44点 会期 9月19日～11月15日 観覧者数 1,634人 ・企画展「版画の底力Ⅲ～リトグラフとシルクスクリーン～+新収蔵品展」18作家 36点 会期 11月28日～1月24日 観覧者数 630人 ・共催展「青梅市小学校造形作品展」約1,000点 会期 1月30日、1月31日 観覧者数 3,423人 ・企画展「美術作品に見るスポーツ・健康」22作家 37点 会期 2月6日～3月27日 観覧者数 535人	○	「明星大学所蔵名品展」と「町立湯河原美術館名品選」は、他館から作品を借用する展覧会であり、市民にとっては館蔵品とは異なるタイプの作品を鑑賞する、よい機会になった。また、これらの展覧会を通して、先方との関係強化も図れたことから、副次的な効果が大きかった。特に、後者に関しては、交換展として町立湯河原美術館において、当館の館蔵品が多数展示されたことから、館蔵品の有効活用や当館のPRにもつながった。 一方、当館の企画展は、さまざまなテーマをもとに、館蔵品を30～50点展示するものとして開催している。幅広く館蔵品を紹介できるよう、年間のスケジュールや展示内容に工夫を施している。具体的には、同じ作家や作品であっても、紹介する切り口を変えることによって、来館者に新たな魅力を提示できるよう努め、リピーターの獲得に寄与している。
	文化課	61 ビエンナーレOME	東京都全域を対象に、多くの優れた新人画家の発掘をめざす公募展を隔年で開催します。	隔年開催のため、開催せず。	-	
	文化課	62 美術講演会	画家や美術評論家を講師に迎え、美術に関する講演会を開催し、美術の関心を深めていただきます。	企画展講演会 「デザインと暮らし」(一般対象) 講師 浅井治彦(明星大学デザイン学部教授) 企画展「明星大学所蔵名品展」に合わせて講演会を開催した。 実施日 6月28日 参加人数 15人 特別展講演会 「湯河原を愛した画家たち」(一般対象) 講師 杉山茂樹(町立湯河原美術館学芸員) 特別展「町立湯河原美術館所蔵名品選～湯の町に集い育まれた美の饗宴～」に合わせて講演会を実施した。 実施日 10月10日 参加者 20人	△	講演会は、いずれも同時開催している展覧会に合わせて実施し、作品に精通した講師を招聘して行っている。展覧会の内容を補完する意味合いもあり、聴講者にとっては興味深い内容であった。ただし、聴講者が定員の半数に満たなかったため、より多くの方に参加してもらえるような、周知方法等を検討していきたい。
	文化課	63 市民映画会	広いジャンルの話題作・名作を上映します。	・犬と私の10の約束 実施日 5月16日 入場者数 420人 ・子ども映画まつり ～名作を鑑賞しよう～ 実施日 8月1日 入場者数 368人 ・聯合艦隊司令長官 山本五十六 実施日 10月3日 入場者数 249人 ・ガリバー旅行記 実施日 3月5日 入場者数 195人	○	アンケート調査などを基に、市民等来場者のニーズに応えられるよう、映画会の演目を決定した。
	文化課	64 市民劇場	芸能の各分野で活躍しているプロを招いて、身近に鑑賞することにより教養を高めます。	・中国民族歌舞雑技団「太陽劇団」 実施日 7月25日 入場者数 387人 ・柳家三三 春風亭一之輔 二人会 実施日 9月26日 入場者数 317人 ・高嶋ちさ子 ピアノクインテット 実施日 12月19日 入場者数 578人 ・世良公則ソロ・アコースティックライブ 実施日 2月27日 入場者数 587人	○	公演委託料の節減と安価な入場料での公演を実現した。市民劇場については前半2回の公演委託料を安く設定できた。しかし、落語に関しては演者が若手であったため入場者数が伸び悩んだ。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	中央図書館	65 中央図書館講座等	図書館の広報と利用者サービスの拡充を図るため、原画展や講演会などを実施します。	<p>市民の教育と文化の向上を図るための学習機会を提供するため、次のとおり各種事業を実施した。</p> <p>○常設展示(3階フロアー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなあつまれ！！人気シリーズえほん大集合！」 4月1日～5月31日</li> <li>・「戦争について考える」 7月1日～8月30日</li> <li>・「おいしい本～読んで、見て、味わう文学～」 9月3日～10月25日</li> <li>・「わたしのおすすめの本」 10月27日～12月27日</li> <li>・「図書館で新発見？！～知ることを楽しもう～」 1月7日～2月28日</li> </ul> <p>○資料展示(4階フロアー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「多摩の祭り」 4月21日～5月31日</li> <li>・「ポップアート展」 10月1日～11月8日</li> <li>・「入間市ってどんなところ？」 10月1日～11月8日</li> <li>・「ぶらり青梅宿」 11月11日～12月25日</li> <li>・「お正月」 12月26日～1月31日</li> <li>・「青梅のスポーツ」 2月2日～3月27日</li> </ul> <p>○ミニ展示(3階フロアー) 4月1日～3月27日 14件</p> <p>○児童展示(3階フロアー) 4月28日～3月27日 8件</p> <p>○特別展示(多目的室)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネル展 7月17日～7月26日 1,422人</li> </ul> <p>○市民講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「紙芝居を用いた戦争の語り」7月26日 参加人数 36人</li> <li>・「救急車を呼ぶ前に！～青梅消防署管内の緊急事例から～」 9月4日 参加人数 18人</li> </ul> <p>・「まちゼミでおなじみ やっちゃんのイチ押しジャズ講座」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>11月28日 参加人数 36人</li> <li>・「江戸の粋を今に伝える青梅の祭り」 3月13日 参加人数 27人</li> </ul> <p>○論語講座 5月10日～2月14日 10回 参加人数 293人</p> <p>○音訳者養成講座(初級) 10月6日～12月16日 10回 参加人数 281人</p> <p>○文学講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「枕草子」の言葉を読む～「ことば」の輪郭～ 11月1日 参加人数 45人</li> </ul> <p>○朗読会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この指とまれ朗読会 5月23日 参加人数 67人</li> <li>・詩の朗読 茨木のり子集～言の葉～ 7月26日 参加人数21人</li> <li>・「紫式部の大長編小説「源氏物語」の世界へ」朗読会 11月7日 参加人数 60人</li> </ul> <p>○釜の淵新緑祭おはなし会 5月12日 参加人数 65人</p> <p>○～おはなしの世界を楽しむ～ 青梅おはなしの会と八王子おはなしの会によるおはなし会 7月4日 参加人数 35人</p> <p>○すばらしい紙芝居と演じ方講座 10月3日、4日 参加人数 21人</p> <p>○大人向けおはなし会 1月16日 参加人数 48人</p> <p>○修理講習会 10月2日 2回 参加人数 52人</p>	○	1年を通じて定期的に展示や講座等を開催し、多くの参加者を得ることができた。今後も各事業の開催回数や内容の充実を図ることが課題である。
	中央図書館	66 工作及び手芸教室	工作などを通じて手作りの楽しさ、創造することのおもしろさを体験する各種教室を実施します。	<p>・工作教室「織る・染めるにチャレンジ！」 実施日 8月4日、8月5日 参加人数 53人</p>	○	工作教室を2回開催し、53人の参加者があった。今後も開催回数や内容の充実を図ることが課題である。
	中央図書館	67 上映会	中央図書館所蔵の視聴覚資料を上映し、映画会を行います。	<p>・6月21日 「黄色いリボン」 参加人数 49人</p> <p>・8月8日 第1回「ふたつの胡桃」 参加人数 42人 第2回「白い町ヒロシマ」 参加人数 41人</p> <p>・12月20日 第1回「ぼくは王さま」 参加人数 30人 第2回「蝉しぐれ」 参加人数 52人</p>	○	映画会を5回開催し、214人の参加者があった。今後も開催回数や内容の充実を図ることが課題である。
	選挙管理委員会	68 明るい選挙推進講演会	明るい選挙を推進していく観点から、明るい選挙推進委員および一般市民を対象に、講演会を開催します。	<p>以下のとおり、明るい選挙推進講演会を開催した。</p> <p>実施日：3月13日 演題：「18歳選挙権のはなし」 講師：東京都選挙管理委員会事務局 小倉由紀 広報啓発担当課長 参加人数：60人(うち一般参加者2人)</p>	○	演題に「18歳選挙権」を選んだことで、参加者の関心を引くことができ、講演内容も「わかりやすかった」「今後の参考になった」という意見が多かったため、今後の選挙啓発活動に役立てることが期待できる。参加人数も会場定員の60人を達成することができ、一定の成果を上げたと言えるが、一般市民の参加者が少なかった。今後は一般市民に向けた周知方法の検討が必要である。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	農業委員会	69 親子農業体験会	田植え・稲刈りといった農作業を体験していただき、市民と市内農業とのふれあいを図ります。	田植え 実施日 6月13日 参加人数 15人(7家族) 稲刈り 実施日 10月17日 参加人数 15人(7家族) 圃場所在地 藤橋2丁目 講師 農業委員会経営部会	○	農業体験により農業への関心や理解を深めてもらうことができた。27年度は例年に比べ参加人数が少なかったため、28年度は市民へのさらなる周知の方法を検討したい。
	青梅市吹上中学校	70 本物にふれる会	子どもたちに本物の文化・芸能にふれることを目的に、古典芸能の鑑賞教室を実施します。保護者および近隣の自治会・地域住民にも参加を呼びかけます。毎年10月実施	増田明美の講演会「夢を走り続ける」実施 実施日10月15日 参加人数 生徒200人、保護者・地域住民等 130人 合計 230人	○	(公財)青梅佐藤財団の援助とPTAの企画・運営のもと、元オリンピック選手の講演会を実施した。生徒だけではなく、地域住民や保護者にも参加を促し例年以上の参加があった。
	青梅市青少年委員協議会	71 ますつりにチャレンジ	青梅の自然を生かし、川でますを釣ってさばき、食べるまでを、体験してもらいます。	「ます釣りにチャレンジ! 2015」実施 実施日 5月10日 会場 成木市民センターほか 参加人数 24人	○	小中学生を対象に実施した。応募数が定員割れであったため、周知方法を改善していく。
		72 集まれおうめっ子	竹・炭火・森など毎年テーマを変え、子ども達が自然に触れる機会を提供します。	「集まれおうめっ子! 林の巻」 実施予定日 11月15日 会場 永山ふれあいセンター 参加人数 32人	○	小中学生を対象に竹細工体験と火おこし体験を実施した。
(3) 共に生きるための学習機会の充実	秘書広報課	73 平和の写真展の開催	世界の恒久平和を希求することをテーマとした写真展を開催し、市民が平和について考える機会とします。	・安島太佳由写真展 実施日 12月12日～24日まで 会場 青梅市立美術館市民ギャラリー 入場者数 243人 ・安島太佳由平和講演会「～命と人権の尊厳を語り継ぐ～」 実施日 12月12日 会場 市役所2階会議室 参加者数 71人	△	戦後70年を迎え、日本に残る戦争遺産について重点的に取材を行っている安島太佳由氏の写真展および講演会を実施したが集客が少なかった。 なお、平成27年は戦後70年であることから、海老名香葉子講演会・泰葉コンサート、ピースメッセージャー、戦後70年記録集の発行と多くの記念事業を実施した。
	秘書広報課	74 国際交流活動支援	国際交流団体の国際交流事業に対する補助(国際交流基金)等の支援を行い、活動の活性化を目指します。	市内の国際交流団体に対して補助金を交付した。 ・語学研修事業 2団体 ・文化交流事業 1団体 ・その他の事業 1団体	○	ドイツ語、中国語の語学研修に加え、市内在住外国人との交流の場として実施している国際交流の広場へ補助を行い、市民の国際交流の推進の一助となっている。 また、姉妹都市提携50周年を記念した市民訪問団のポツバルト市派遣団員に対しても補助を行い、両市民の交流の進展が図られた。
	秘書広報課	75 通訳ボランティア	青梅マラソン大会参加外国人選手の通訳を、ボランティアの協力を得て、国際的な交流の輪が広がるよう支援します。	2月20日、21日の2日間、青梅マラソンの外国人選手に対し、通訳語学ボランティアの協力を得て支援した。 ・独語ボランティア 8人 ・英語ボランティア 4人	○	青梅マラソン大会が50回を迎え、多くの外国人ランナーが参加している。 英語ボランティアは、主に受付で通訳業務を行った。 独語ボランティアは、姉妹都市ポツバルト市からの市民ランナーに帯同し、前日のコース下見から大会当日までのサポートを行った。 特に、ポツバルト市民との交流が深まり、姉妹都市とのスポーツ交流が深まった。 また、姉妹都市提携50周年を機に広報で通訳ボランティアを募集した。
	企画政策課	76 男女平等講座の開催	男女平等参画の視点に立った講座を実施します。	男女平等参画の意識啓発のため、各種の啓発講座を開催するとともに、「市民のくらし展」や市役所・市民センター等でパネル展を実施し、啓発を図った。	○	啓発講座については、前年度の実施状況を踏まえて内容の充実を図るとともに、特にデートDV講座については、対象をこれまでの高校生から、中学生(3年生)に引き下げて実施した。
	企画政策課	77 女性の就業支援	働く女性の能力開発および就業意欲向上のための講座を開催し、情報提供を行います。	ハローワーク青梅および商工観光課と共催で、これから働こうとする女性を対象とした「女性の再就職支援パソコン講座(エクセル初級)」を開催した。 また、商工観光課と共催で、働く女性を対象とした「働く女性のスキルアップパソコン講座(エクセル関数)」を開催した。 さらに、単年度事業として、職業生活において女性が活躍できる環境づくりを進めるため、企業等に勤める女性社員を対象に、管理職やリーダー育成のための、マネジメントスクールや成果報告会等を開催した。	○	東京都の交付金を活用して実施した地域女性活躍推進事業は、企業および参加者から好評を得られた。女性の活躍推進に関しては、法律が制定され、青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略にも取組を掲げていることから、今後の事業展開を検討していく必要がある。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(3) 共に生きるための学習機会の充実	市民センター	78 老壮大学	<p>教養の向上と生きがいづくり、心身の健康増進のために各種講演会・講習会を行います。</p> <p>青梅老壮大学、調布ことぶき大学、霞老壮大学、梅郷老壮学園、小曾木老壮大学、東青梅老壮大学、河辺老壮大学</p>	<p>(青梅老壮大学) ・教養の向上と生きがいづくり、心身の健康増進のために各種講座、学芸祭、研修視察(年2回)を行った。(青梅C)</p> <p>(調布ことぶき大学) ・講演会、芸能大会、日帰り研修等の行事を年11回開催した(長淵)</p> <p>(霞老壮大学) ・講演会(6回)、日帰り見学会(1回)、一泊二日修学旅行(1回)を開催した。入学式・卒業式(各1回)を行った。創立50周年記念式典を開催した。毎月1回コーラスサークル(会員数100名)の活動を支援し新年祝賀会や記念式典で成果の発表し好評を博している。四季折々の題在をもとに冠句会(2回)を開催し、11月のセンター文化展に出品した。(大門C)</p> <p>(梅郷地区老壮学園) ・講演会(2回)、映画観賞会(2回)、日帰り研修旅行を実施、延べ282人が参加した。また、梅郷地区総合文化祭への出品、梅郷地区高齢者クラブ連合会の芸能大会へ参加した。(梅郷C)</p> <p>(小曾木老壮大学) ・講座、講演会、日帰り研修等の行事を年11回開催した(小曾木)</p> <p>(東青梅老壮大学) ・教養の向上と生きがいづくり、心身の健康増進のために講演会・研修旅行等の事業を13回延べ517人の参加を得てを行った。(東青梅C)</p> <p>(河辺老壮大学) ・事務局として、教養の向上と生きがいづくり、心身の健康増進のために各種講座、講演会等を12回開催し、延べ730人の参加を得た。(河辺C)</p>	○	<p>老壮大学の運営にも学生自ら参加することにより自主性がめばえ、また多方面にわたる講座を計画実施することにより、広い教養の向上や生きがいプラスに働いていると考える。</p> <p>講演会には毎回100名以上の出席者が集まり盛況に開催出来た。創立50周年記念事業で実行委員会を組織し、記念式典の開催、記念品の作成、記念誌の発行を行った。冠句を文化展に出品することによって、多くの人に作品を評価してもらい研鑽することが出来た。(大門C)</p>
	福祉総務課	79 社会を明るくする運動	人々が互いに助け合い、希望を持って生きることのできる明るい社会を目指して、座談会やチラシの配布など啓発事業を行います。	<p>青梅市推進委員会を開催し、年度内の取り組み内容を決定する。</p> <p>おうめ健康まつりでティッシュと絆創膏の配布を行い、運動のPRを実施。強調月間の7月1日、市役所に集合し推進委員長のあいさつのち、保護司や地域の中学生による啓発活動を、JR青梅線の河辺駅、東青梅駅、青梅駅で実施。</p> <p>また、各地域で保護司や青少年対策委員等の協力を得て、市内の市民センター等でミニ集会や座談会を開催し、啓発活動を実施した。市民プールや図書館においてもPR活動を実施した。</p>	○	<p>今回で65回目を迎えた法務省主唱の全国で実施されている行事である。青梅市においても、教育委員会、西多摩地区保護司会青梅分区分、青梅警察署、青梅防犯協会、青梅市社会福祉協議会、自治会連合会、教育関係機関など23団体で推進委員会を組織し、7月以降様々なイベントを行って、啓発活動を行うことができたため。</p> <p>特に、駅頭でのPR活動や、市民センター等でのミニ集会で多くの市民に事業の内容を周知できたため。</p>
	高齢介護課	80 家庭介護DVDの貸出し	在宅の介護者やボランティアの方々活動を支援するために、介護等のDVDを無料でお貸しします。	<p>家庭介護のためのDVD等の貸し出しを行った。</p> <p>利用者数 2人 利用本数 3本</p>	○	前年度より利用者数が増加したため。
	高齢介護課	81 認知症サポーター養成講座	認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する。認知症サポーターを養成するための講師を派遣します。また、認知症サポーターに対し、ステップアップ講座を行います。	<p>認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを養成することにより、認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくりを推進した。</p> <p>認知症サポーター数 合計1,113人</p>	○	講座の回数、人数共に、大幅に増加することができたため。
高齢介護課	82 高齢者クラブ健康づくりモデル事業	ウォーキング等を取り入れた健康づくりモデル事業を実施し、地域の高齢者の健康づくり活動への参加と、自発的な介護予防に資する組織の育成・支援を行います。	<p>毎年、市内の高齢者クラブの中から3クラブを選定し、ウォーキング教室を実施。参加者に万歩計を配布し、ウォーキングを実践してもらい、事前事後で体力測定を行い、運動の効果を評価する。</p> <p>・西分長寿会 実人数33人 (延 61人 9/8:33人 11/12:28人)</p> <p>・わかき会 実人数31人 (延 51人 9/10:31人 11/25:20人)</p> <p>・根ヶ布白寿会 実人数30人 (延 53人 9/14:30人 11/19:23人)</p> <p>参加者延数165人</p>	○	各高齢者クラブにて、継続したウォーキングが実践でき、健康づくりの大切さを再認識していただいた。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(3) 共に生きるための学習機会の充実	高齢介護課	83 家族介護教室	高齢者を介護している家族等を対象として、介護方法や介護予防、介護者の健康づくり等の知識・技術を修得する教室を開催します。	高齢者を介護している家族等に対して、介護方法や介護予防、介護者の健康づくり等についての知識・技術を習得する機会を提供することにより、その身体的、精神的負担の軽減を図るとともに、要介護高齢者等の在宅生活の継続、向上を図った。 「ヨガで行う介護者のリラクゼーション」ほか 延べ参加人数89人	○	介護者の健康づくりやストレス軽減について、周知することができたが、参加者の増加へ向け検討が必要。
	障がい者福祉課	84 手話講習会事業	福祉に対する関心を高め、地域福祉を推進するため、手話の初・中・上級講習会を開催します。 初・中級講習会は、新たに障害者団体等と協働で実施します。	青梅市聴覚者協会との協働事業によって、中級手話講習会を実施した。	○	初級手話講習会から中級手話講習会に進んだ方が30名いたが、終了基準を満たした方が20名であり終了率が低かったが、おおむね順調であると判断した。
	障がい者福祉課	85 点字図書給付事業	視覚障がい者の方に、点字図書を給付し、その活動を支援します。	視覚障がい者の方に、点字図書を給付し、その活動を支援した。 利用者1人	○	平成26年度は利用実績がなかったが、視覚障がい者への支援のひとつとして利用者1人ではあるが効果的な事業であるため、おおむね順調であると判断した。
	障がい者福祉課	86 身体障がい者自動車運転教習事業	身体障がい者の就労など社会参加の拡大を図るため、自動車運転教習費用の助成を行います。	身体障がい者の就労など社会参加の拡大を図るため、自動車運転教習費用の助成を行なった。 利用者3人	○	身体障がい者の社会参加の拡大に効果的な事業であるため、利用者3人ではあるが、おおむね順調であると判断した。
	障がい者福祉課	87 相談支援事業	市の窓口で、障がいのある方やその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や助言を行うことで社会生活の自立に向けた支援をします。	設置場所 市役所障がい者福祉課、青梅市障がい者サポートセンター、青梅市障害者就労支援センターで実施。 ・市役所障がい者福祉課 実利用人数 1,011件 ・障がい者サポートセンター 延べ相談件数 5,654件 ・障害者就労支援センター 4,268件	○	市の窓口等で、障がいのある方やその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や助言を行い支援ができたことにより、おおむね順調であると判断した。
	障がい者福祉課	88 意思疎通支援事業	意思の疎通が困難な重度聴覚障がい者の方に対して、公共団体等が主催する行事などに手話通訳者・要約筆記者を派遣します。	意思の疎通が困難な重度聴覚障がい者の方に対して、公共団体等が主催する成人式、講演会などに手話通訳者・要約筆記者を派遣した。	○	障害者差別解消法の施行に伴い、合理的配慮のひとつとして重要な事業と認識しており実績もあるので、おおむね順調であると判断した。
	障がい者福祉課	89 青梅市障がい者サポートセンター事業	障がいのある方やその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や支援を行い、障がいのある方の創作活動や生産活動の機会を提供し、社会との交流の促進等を行います。また、障がいのある方やその家族、障がい者団体等が活動する場を提供し、障がいのある方の自立の促進を図ります。	条例・規則に定めた支援を実施した。 ・相談支援 延べ相談件数 5,654件 ・創作活動や生産活動 延べ参加人数 4,463人 ・施設貸出し 延べ利用人数 5,533人 ・生活支援(パソコン指導・療育指導) 延べ人数 238人	○	相談支援件数が減少しているが、これは、障害福祉サービスのサービス等利用計画の作成の影響と考えるが、本事業は、障害のある方やその家族等への支援を行い、障害者の自立の促進が図られているため、おおむね順調であると判断した。
	障がい者福祉課	90 中等度難聴児発達支援事業	身体障がい者手帳の交付対象とならない中等度難聴児に対して、補聴器の購入費用の一部を給付し、言語の習得等を促進させ健全な発達を支援します。	身体障がい者手帳の交付対象とならない中等度難聴児に対して、補聴器の購入費用の一部を給付し、言語の習得等を促進させ健全な発達を支援した。 利用者1件	○	本事業は、平成25年度からの新規事業で、手帳の交付対象とならない難聴児に対する支援で1件であっても効果的と考えるため、おおむね順調であると判断した。
	社会教育課	91 国際理解講座	1 世界に広がる教室 次代を担う青少年(小学4年生～高校生)のために、国際的な視野と教養が身につくよう支援します。(英会話と文化講座) 2 外国人日本語講座 日本に来て間もない外国人の日本語理解の手助けをします。(正しい日本語の学習「音声・文字・助詞」)日本語が話せない方には、日本語学習グループを紹介します。	・小学生講座 実施日 5月23日～3月5日(全20回) 内容 英会話講座、文化講座 参加人数 小学校4年生33人、小学校5年生33人、小学校6年生19人 計85人 ・中学・高校生講座 実施日 5月23日～3月5日(全20回) 内容 英会話講座、文化講座 参加人数 中学1年生8人、中学2年生6人、中学3年生1人、高校1年生2人 計17人 ・外国人日本語講座 実施日 5月20日～11月28日(全18回) 内容 正しい日本語の学習、音声、文字、助詞 参加人数 21人	○	合計で102名の世界に広がる教室の参加者を迎えて講座を実施した。しかし、定員には満たない状況なのでさらなる参加者増加に向けて広報していく必要がある。 外国人日本語講座についても、参加人数が芳しくない現状があるので、増加するよう周知方法を改善していく。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(3) 共に生きるための学習機会の充実	社会教育課	92 ともに生きるための教室・講座の企画運営	地域で助け合いと協力、ふれあいを支援する教室・講座を開催します。 高齢者の生きがい、男女平等、人権平和・国際理解、障がい者の学びの場を実現し、地域で助け合いと協力、ふれあいを支援する教室・講座を開催します。	・「わたしらしく！女性のための未来力UP講座(21人) ・これからの人生を楽しむための水彩スケッチとその活用術2015(83人) ・国際理解講座公開講座(80人) ・スターバックスのおいしいコーヒーの淹れ方&青梅のチョコレート工場のチョコをちょこっと食べよう(14人)  青梅市生涯学習推進市民会議企画講座 ・英語で楽しむフィリピン料理(16人) ・英語で楽しく！ハニー&ソルトでつくるバススクラブ講座(13人) ・英語で楽しくスタンダードナンバー(25人)  ※括弧内は講座の延べ参加人数 合計 7講座 252人	○	多文化理解や男女平等、趣味を通じたコミュニティ形成などを目的に7講座を実施した。
	社会教育課	93 生涯学習まちづくり出前講座	市の施策や事業等をテーマに、市職員等が市民のところに外出してお話する出前講座を実施し、市民が自分達のまちについて学ぶ生涯学習の機会を提供します。	講座名「青梅の姉妹都市～ボツパルトについて～」以下83講座 17部署(健康課以下13課・青梅消防署・青梅警察署、東京保護観察所立川支部、関東財務局東京財務事務所) 延べ受講者数 3,212人	○	各課、各部署の協力により、幅広いテーマで83講座開催した。
(4) 健康に生きるための学習機会の充実	スポーツ推進課	94 各種体操教室	市民の健康・体力づくりを目的とした各種体操教室を総合体育館および健康センターで実施します。幼児、小学生、親子、勤労者、女性、中高齢者など、対象別の各種教室を企画・開催し、参加者にとって魅力のある教室の運営を図ります。	・長期教室 ホップステップ体操、シェイプアップ体操、はつらつ体操、のびのび体操、男性のためのヘルシー体操、フレッシュアップ体操、リフレッシュ体操、レッツゴー！こども体操 ・短期教室 幼児体操、ヘルシーナイトエクササイズ、健康・体力づくりトレーニング 会場 総合体育館第3スポーツホール 延べ参加人数 15,031人(404回開催)	○	幅広い年代に対して、年間を通した定期プログラムを実施することで、心身の健康保持に役立つスポーツ・レクリエーションの機会を提供できた。 また、対象を絞った教室を開催することで、参加者にとって魅力のある内容で実施することが出来た。
	スポーツ推進課	95 青梅マラソン大会	スポーツを通じてボランティアをする機会を提供します。 全国の市民ランナーと国内外の招待選手が青梅に集い、マラソンを通して選手と市民がスポーツ・文化交流を深めます。 30キロの部、10キロの部	実施日 2月21日 参加人数 17,208人 30キロの部 13,616人 10キロの部 3,592人	◎	第50回目の記念大会として、昨年(14,946人)を上回る参加者を迎え開催した。 50年間の歩みをまとめた記念パネルを製作し展示するなど、青梅市の歴史と共に歩み続けている青梅マラソン大会を市民へ広く発信することで、マラソン大会への理解を深め、自らも大会への出場を目指し、日常的なランニング等の実施を促す意識啓発を行った。
	スポーツ推進課	96 有酸素運動普及事業	気軽にできるウォーキングやノルディックウォーキング等の有酸素運動の教室を、ウォーキングモデルコース等を利用して開催し、市民の体力・健康の維持増進に寄与します。	1,000万歩達成者4人に記録証・記念品を交付した。 まち歩き健康ウォーキング教室 1回開催 参加人数 11人 ノルディックウォーキング教室 1回開催 参加人数 19人 ウォーキングフェスタ 参加人数 208人	○	教室の開催に合わせて、青梅の森など、参加者が日常的に利用しやすい青梅市の地域特性を活かしたコースを紹介することが出来た。 参加者数に関しては周知期間が短く定員に満たない教室もあるなど、周知面での課題が残った。
	スポーツ推進課	97 スポーツ・レクリエーション活動	スポーツ・レクリエーション活動を全市的な規模で実践する場を提供することにより、市民一人一人の活動への参加意欲を喚起し、生涯スポーツを振興します。	実施日 10月12日(体育の日) 会場 総合体育館ほか体育施設 参加人数 2,912人	○	青梅市体育協会加盟団体が多様な種目を実施することで、参加者が増加してきている。また、地域スポーツ文化交流クラブの協力を得ることで、カヌーやラフティング、河原でのヨガなど青梅の地域特性を活かした青梅ならではのスポーツの推進を行うことが出来ている。 課題としては、実施種目が多いことで、チラシ等では詳細な情報が載せられないため、参加者が誤解したまま会場へ行ってしまふことがある。
	スポーツ推進課	98 市民体育大会	市民の体力づくりと技術の向上を図ることを目的として、青梅市体育協会に委託し、各種大会を実施します。	種目 28種目 参加人数 8,185人	○	広く市民に開かれた大会として実施しており、事業の目的は果たしている。 ルールを知っていればだれでも参加出来る大会を開催することで、市民体育大会への参加を目標とし、スポーツに取り組む機会を提供している。
スポーツ推進課	99 奥多摩深谷駅伝競走大会	箱根駅伝に次ぐ伝統を誇る大会で、200チーム以上が冬の奥多摩路を疾走します。一般・大学・高校の部・・・44.8キロ(6区間) 女子の部・・・11.1キロ(3区間)	実施日 12月6日 参加チーム数 205チーム	○	チームで参加できるランニングイベントとして、仲間と共にスポーツに取り組む機会を提供している。観客が少ないため、参加していない市民に対して「みるスポーツ」として、駅伝大会を通じてスポーツにふれ合う機会の創出が必要。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由	
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	スポーツ推進課	100 屋内温水プール開放事業	市内にある民間温水プールを借り上げ、年間を通じて市民の健康、体力づくりの場として提供します。	実施日 毎週日曜日 48回開放 利用人数 大人1,174人 小人563人 合計 1,737人	○	昨年を超える利用者がおり、年間を通じた健康、体力づくりの場として機能している。	
	高齢介護課	101 介護予防講演会	介護予防に関する基本的な知識の普及啓発のため講演会を開催します。	年間2回、一般市民を対象に開催。 ・10月29日(木) 「これがポイント！認知症予防と高齢者のうつ病について」 東京海道病院 日比慎太郎医師 参加人数 53名 ・2月29日(月) 「健康寿命を延ばそう。今日からはじめる介護予防！」 医療法人社団和風会 石田信彦理事長 参加人数 87名	○	2回共に定員を上回る申し込みがあり、アンケート結果もおおむね好評だったため。	
	高齢介護課	102 自主グループ育成支援	高齢者が身近な地域で元気に自立した生活を続けるために、自主的に介護予防を目的とした運動などを行うグループ活動やそれを担うグループリーダーの育成を支援します。	・介護予防リーダー養成講座 養成講座 9月～12月全12回 参加人数22名(延べ242名) フォローアップ講座 平成28年1月～3月全3回 参加人数※40名(延べ91名) ※平成26年度修了者も含む ・高齢者の絵本読み聞かせボランティア養成講座 6月～11月全9回 参加人数11名(延べ72名)	○	介護予防リーダー養成講座は、平成26年度受講者のフォローアップ講習も実施するなど、講習内容の充実を図れたため。運動だけではなく、介護予防につながる生きがいづくりとして、新たに読み聞かせボランティア養成講座を実施した。	
	高齢介護課	103	健康づくりや閉じこもり予防を目的とし、健康チェックや軽体操、ミニ健康講座等集団での健康づくりを行います。	・いきいき健康太極拳教室 太極拳で行う呼吸や一連の動作により、バランスの保持や筋力の維持・向上、転倒予防などを目指して実施した。 実施期間5～7月全12回 参加人数15名(延べ144名)	△	参加者の介護予防や健康づくりにつながったが、太極拳は組織的な活動が整備されていて、自主的グループ活動の発展が難しいことがわかった。次年度以降、内容を変更して実施する。	
	健康課	104	機能訓練	・ブレ体づくり教室 半日実施(年間24回)、延べ参加者数:234名 対象者:40～64歳の者	○	ブレ体づくり教室を実施した。健康づくりのための運動やミニ講座、参加者間の交流にも視点を置き、教室終了時には参加者同士が連絡先を交換をする等、地域に戻す取り組みもできた。	
	健康課	105	おうめ健康まつり	医師による健康相談、健康チェック、歯科相談、展示、体験等のコーナーや健康講演など、市民一人一人が楽しく家族ぐるみで健康づくりを学べる催しです。	第46回おうめ健康まつり(旧市民健康の集い)を開催した。 青梅市三師会と市の共催で「家族ぐるみの健康づくり」をテーマに、三師会等による各種相談、市民参加型の各種コーナーの実施、青梅市三師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会)による講演会を実施した。 ・実施日:5月31日午前10時から午後3時30分 ・会場:青梅市役所(正面玄関、1階ロビー、2階会議室等) ・参加人数:延べ5,867人(7,804人)	○	各コーナーについては、昨年度参加者アンケートを踏まえ共催者である青梅市三師会等と実施内容の協議を行い、三師会等による各種相談、がん検診PRやヘルスチェック、ウォーキング教室、転倒予防教室、乳児とママのハワイアンリトミック等市民参加型の各種コーナーの開設や青梅市三師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会)による健康に関する講演会を実施し、健康づくり普及啓発の機会の場として健康に関する正しい知識や情報提供を行うことができた。
	健康課	106	健康教育	生活習慣病の予防等に関する教室を開催し、健康づくりや疾病の予防など市民の健康についての学びの機会とします。	生活習慣病の予防や健康づくり等に関する各種講座を開催した。 ・開催場所:健康センター、市役所 ・参加者数:5,016名(延べ人数)	○	27年度は、フォローアップ指導事業を5日間から6日間に増やし、また、ロコモティブシンドローム予防教室を新規事業として実施するなど、事業の拡大と充実を図った。
	健康課	107	健康相談	日ごろ、健康について気になることなどを相談できる機会として、健康センター、沢井保健福祉センター、小曾木健康福祉センター、小曾木保健福祉センターで実施します。	健康に関する個別の相談に応じ、必要な助言および支援を行なった。 ・開催場所:健康センター、沢井保健福祉センター、小曾木健康福祉センター、中央図書館、市役所ロビー ・相談者数:1,847名(延べ人数) ・予期しない場所での血圧測定や相談の実施により、健康に関心がないと思われるものや、高血圧等の未治療者に対し、正しい知識や情報を提供することができた。	○	予期しない場所での血圧測定や相談の実施により、健康に関心がないと思われるものや高血圧等の未治療者に対し、正しい知識や情報を提供することができた。



施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	総合病院管理課	108 おうめ健康塾	当院の医師・看護師等が講師となり、疾病の原因、治療、予防等について話し、質問にもお答えします。年間6回程度開催します。	下記のとおり、青梅市立総合病院講堂において、おうめ健康塾を10回開催した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>5月30日 題名：がんの治療と上手につきあうために 講師：化学療法外科部長 杉崎 勝好、がん化学療法看護認定看護師 田村 貴子 参加者：93人</li> <li>6月20日 題名：慢性閉塞性肺疾患(COPD)について 講師：呼吸器内科副部長 大場 岳彦 参加者：19人</li> <li>7月18日 題名：心筋梗塞と狭心症について 講師：循環器内科部長 清水 茂雄 参加者：96人</li> <li>9月26日 題名：胃癌ハイリスク検診と内視鏡治療の進歩 講師：診療局長兼消化器内科部長 野口 修 参加者：82人</li> <li>10月24日 題名：C型肝炎は治せる病気になりました 講師：診療局長兼消化器内科部長 野口 修 参加者：25人</li> <li>11月28日 題名：この冬を乗り切るための健康術 講師：救急看護認定看護師 輿水 智美 参加者：61人</li> <li>12月12日 題名：認知症を理解する 講師：精神科 田中 修 参加者：90人</li> <li>1月16日 題名：おくすりとの上手なつきあい方 講師：薬剤部長 田中 三広 参加者：73人</li> <li>2月13日 題名：子どものけいれん・てんかん 講師：小児科副部長 高橋 寛 参加者：60人</li> <li>3月12日 題名：糖尿病の発症予防 講師：内分泌糖尿病内科 西澤 麻依子 参加者：76人</li> </ul>	○	病気を正しく理解していただくことや病院の取組等を発信すること、また、医師や看護師等が講師となることから、より病院を身近に感じていただくことができた。 このような機会を通じて地域に開かれた病院であることを理解いただくとともに、健康意識の高揚につなげることができた。
	スポーツ推進課	109	市民が健康な生活が送れるよう支援する教室・講座を開催します。 1 短期スポーツ 気軽に楽しく誰にでもできるスポーツ教室を開催します。(青梅マラソンの走り方教室、少林寺拳法教室、ピラティス教室、ニュースポーツ教室等) 2 長期スポーツ教室 青少年の心身の健全育成を目的とした剣道・柔道教室を、年間を通して開催します。 3 ジュニアスポーツ教室 小学生のスポーツへの関心をより高め、各種スポーツの紹介、体験を通して自身の適性を知り、興味や親しみを持ってもらうことを目的として開催します。 4 アダプテッド・スポーツ教室(障がい者スポーツ教室)を開催し、スポーツに親しむとともに障がいのある方とない方の交流を図ります。 5 各種健康関係教室 熱中症予防講座、スポーツ外傷と応急処置教室や介護予防教室などスポーツ活動中だけでなく日常生活でも役立つ教室を開催します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期スポーツ教室 10教室、21回(335人)</li> <li>アダプテッド・スポーツ教室(旧障がい者スポーツ教室)、2回(117人)</li> <li>長期スポーツ教室 柔道教室 延べ247教室(3,210人)</li> <li>剣道教室 延べ458教室(6,505人)</li> <li>ジュニアスポーツ教室(各教室計4回実施)</li> <li>バスケットボール教室(346人)</li> <li>バドミントン教室(162人)</li> <li>水泳教室(187人)</li> <li>ビーチボール教室(160人)</li> <li>テニス教室(200人)</li> <li>バレーボール教室(173人)</li> <li>卓球教室(133人)</li> <li>ソフトテニス教室(295人)</li> </ul> ※括弧内の人数は延べ参加人数	○	初心者でも参加が出来るスポーツ教室を開催することで、市民が興味を持ったスポーツ教室に自主的に参加できる機会を提供した。
	高齢介護課	110	健やかに生きるための教室・講座の企画運営	介護予防を目的に各テーマを設けて、2ヶ所の市民センターにて隔月で介護予防運動教室を開催。 青梅市民センター(偶数月) 全6回 延べ83名参加 河辺市民センター(奇数月) 全6回 延べ65名参加	○	6回にわたり継続的に介護予防教室に参加してもらうことで、介護予防の意識を高めるとともに、体操等の方法を覚えてもらうことができたため。
	健康課	111		熱中症予防講座については、単独の開催は実施していないが、健康課主催の料理教室や各種講座の中で学ぶ場として提供した。	○	熱中症予防については、各講座の中での学ぶ場に加え、おうめ広報、リーフレットによる周知や民生委員等の市内各団体へリーフレットを配布し、予防の普及啓発に努めた。 なお、単独での講座の開催については再度検討する。
社会教育課	112		<ul style="list-style-type: none"> <li>ピラティス～呼吸法と共に体幹を鍛える～(82人)</li> <li>青梅市生涯学習推進市民会議企画講座 4講座 <ul style="list-style-type: none"> <li>作業療法学生による認知症予防講座(58人)</li> <li>からだの適応能力UP講座ピラティス(76人)</li> <li>からだの適応能力UP講座Let'sムーブメント(42人)</li> <li>からだの適応能力UP講座スクエアステップ(17人)</li> </ul> </li> </ul> ※括弧内は講座の延べ参加人数 合計 5講座 275人	○	市民会議の企画講座を中心に老化予防や健康に関係する運動講座を実施した。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実	秘書広報課	113 広聴活動	市政に関する要望、意見、提案等を寄せていただき、市民参画によるまちづくりを進めるために役立てます。	市長への手紙を市内の公共施設を中心に設置するとともに、要望書についても、随時受付を行った。 ・市長への手紙 157件 ・要望書 123件	○	市政に関する要望、意見等に対し、なるべく迅速に回答するよう努力している。いただいた要望等は、今後の市政運営に役立っています。
	市民安全課	114 交通公園日曜映画教室	楽しみながら交通安全の知識が得られるように、幼児から親子を対象に交通安全の講話と映画上映を毎週日曜日に実施します。	参加人数:636人	○	毎週日曜日に、交通安全啓発ビデオを上映し、楽しみながら交通ルール、マナーについて、啓発することができたため。
	市民安全課	115 交通公園交通安全教室	楽しみながら安全な歩行や自転車利用法、交通マナーが習得できるように、保育園児や幼稚園児、小学生、高齢者を対象に交通公園で随時実施します。	参加人数内訳 小学生:1,523人 高齢者:192人 幼稚園、保育園児:1,183人 その他団体:212人	○	青梅警察署を始めとする各種関係団体と協力し、市内の小学校3年生を対象とした自転車運転免許証交付事業を実施するとともに、幼稚園、保育園、希望校(3年生以外)を対象とした交通安全教室も随時実施し、交通ルール、マナーの啓発に努めた。 また、高齢者を始めとする大人を対象とした交通安全教室についても開催し、老若男女を問わず、交通安全意識の高揚を図ることができたため。
	市民安全課	116 交通安全講習会	青梅警察署および青梅交通安全協会と連携し、一般市民を対象に市内12か所の会場で、交通安全講話と交通事故防止を目的とした映画上映を行い、交通安全意識の高揚と事故防止を図ります。春・秋の交通安全運動に先がけて、各12日間実施します。	秋の交通安全講習会 8月24日～9月5日(8月30日除く)12日間 参加人数:378人 春の交通安全講習会 3月7日～3月19日(3月13日除く)12日間 参加人数:392人 合計 参加人数:770人	○	一般市民を対象に春・秋の交通安全運動に先駆けて、市内12か所の会場で、交通安全に関する講話と交通事故防止を目的とした映画上映を行い、交通安全意識の高揚を図った。
	市民安全課	117 セーフティ教室(交通事故再現方式)	交通事故再現方式による自転車安全教育を中学校において行い、交通安全意識の高揚と事故防止を図ります。	泉中学校(4月30日) 参加生徒数:518人 新町中学校(5月22日) 参加生徒数:629人 第一中学校(7月11日) 参加生徒数:287人 合計:1,434人	○	交通事故の衝撃や怖さを実感することにより、交通安全意識の高揚、自転車走行ルール・マナーの向上を図ることができた。
	市民安全課	118 専門相談事業	専門相談員による各種専門相談(法律相談・人権身の上相談・行政相談・交通事故相談・登記相談)を実施します。	・法律相談 (相談内容) 土地家屋の賃貸借、相続、離婚、債権債務、損害賠償など (相談回数) 80回 (相談件数) 510件 (相談員) 弁護士 ・交通事故相談 (相談内容) 交通事故による損害賠償問題、示談および保険手続きなど (相談回数) 24回 (相談件数) 33件 (相談員) 弁護士 ・登記相談 (相談内容) 土地・家屋の不動産や法人登記および境界に関する事 (相談回数) 12回 (相談件数) 65件 (相談員) 司法書士、土地家屋調査士 ・身の上相談 (相談内容) 家庭や身の上の悩み事、職場の差別やプライバシー侵害など (相談回数) 16回 (相談件数) 29件 (相談員) 人権擁護委員 ・行政相談 (相談内容) 国の行政機関や政令で定める法人の業務に対する苦情や要望など (相談回数) 14回 (相談件数) 9件 (相談員) 行政相談委員 ・相続遺言等暮らしの手続き相談 (相談内容) 相続に関する遺産分割協議書、遺言書等の書き方や手続きに関する事 (相談回数) 12回 (相談件数) 65件 (相談員) 行政書士	○	専門相談員による各種専門相談を実施することができた。
	市民安全課	119 パネル展等	消費者意識の高揚と被害防止を図るため、パネル展示やパンフレットの配布を行い、知識を広げます。22か所	市役所エントランスロビー、市民センター玄関ホール、高等学校、専門学校等において、悪質商法の手口等を紹介したパネル展示を延べ21回実施したほか、啓発冊子の配布を西東京農業協同組合の本支店9か所に依頼した。	○	高等学校、専門学校や企業等の協力により、市内各所でパネル展示等を行えたことにより、悪質商法をはじめとする消費者トラブルの事例と対処法についての啓発を広く行うことができた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実	市民安全課	120 消費者相談	契約上のトラブル、欠陥商品による被害を受けた場合などの相談を受けることで、市民に消費生活上の知識を広げていただきます。週5日(開庁日全日)	消費者相談は、週5日(開庁日全日)実施し、毎月第2・第4火曜日については、午後6時まで相談時間を延長した。	○	消費者相談は、消費生活相談員が1~2人の体制で電話および来庁での相談に対応することができた。
	市民安全課	121 消費者研修会・セミナー	市民を対象として、日常生活に役立つ身近なテーマを取り上げ、開催します。年20講座	生活知識に関して24講座、環境・資源に関して2講座、食に関して7講座、計33講座開催した。	○	高齢者を対象とした悪質商法防止啓発をはじめ、生活の中で身近な題材等の講座を行ったが、小学生から高齢者まで幅広い年齢層から参加があり、啓発ができた。
	市民安全課	122 市民のくらし展	市民生活の安定とコミュニティの大切さを啓発するため実施します。年1回・参加3団体	10月31日・11月1日の2日間開催した。参加団体3団体、延べ来場者数 12,900人	○	青梅産業観光まつりに併設して行ったため、多くの来場者にくらしに関する情報を発信できた。また、市内にある高校の生徒がボランティアで参加したが、展示内容について学んでもらうことができた。
	環境政策課	123 親水事業の拡充	市民団体等と協働で、事業体験型や学習型の親水事業を充実します。	①がんばれ!あゆっ子2015「稚鮎の放流と生態系調査」(NPO法人奥多摩川友愛会)子ども59人、保護者39人 ②ガサガサ水辺の探検隊(青梅・多摩川水辺のフォーラム)(子ども116人、保護者73人) ③じゃぶじゃぶ川で遊んじゃおー「川は生き物のすみかだ!遊び場だ その1」(霞川くらしの楽校)(子ども55人、保護者32人) ④第8回子どもカヤック体験教室(美しい多摩川フォーラム)(子ども12人、保護者6人) ⑤多摩川の魚を釣ってみよう「子どもの昔ながらの釣り体験教室」(NPO法人奥多摩川友愛会)(子ども20人、保護者14人) ⑥いかだで遊ぼうin霞川part7「川は生き物のすみかだ!遊び場だ その2」(霞川くらしの楽校)(子ども28人、保護者20人) ⑦第7回炭焼き体験と水辺の交流会(美しい多摩川フォーラム)(子ども27人、保護者16人) ⑧多摩川まるごと遊び塾~水辺はほくらのワンダーランド~(青梅・多摩川水辺のフォーラム)(子ども74人、保護者48人) ⑨川で何でも遊んじゃおー「川は生き物のすみかだ!遊び場だ その3」(霞川くらしの楽校)(子ども22人、保護者18人) ⑩第7回ふるさとの川、多摩川親子さかな釣り体験教室(NPO法人奥多摩川友愛会)(子ども38人、保護者40人)	○	各事業ともに、当日までの間に行われた準備作業や、関係者との調整、周知活動等、団体の行動力には目を眩るものがあり、市においても物品準備や周知活動、当日の事業運営への協力をを行い、それらの結果として、多くの子どもたちに自然体験をしてもらうことができたため、効果はかなりあったと考えられる。
	環境政策課から公園緑地課へ移管	124 市民環境講座	市民の環境への関心を高め、環境施策を推進します。	「青梅の森」市民ボランティア講座を実施していたが、平成26年度より市民団体の自主講座として実施している。	-	
	環境政策課	125 環境月間	環境保全の重要性を認識し、行動の契機とするため、各種の啓発を行います。	①6月1日号広報おうめで周知 ②6月の環境月間中の「おうめ環境フェスタ2015」をおうめ環境市民会議と協働で実施した。 ・体験ワークショップ(542人) ・親子野鳥観察会(49人) ・市役所ロビー展示 ・中央図書館環境図書コーナー ・講演「多摩川の自然と青梅」(29人) ・親子ホテル観察会→雨天中止 ・環境フェスタ・アーカイブス(241人) ③3月15日おうめ環境ニュースを発行	○	市内の団体、企業、教育機関等の各主体の環境活動を集め、市民に向けてアピールする環境月間に行く「おうめ環境フェスタ」は、啓発効果が高く、環境について考える場を提供できる意義ある事業と考えられる。このメインイベントとなる体験ワークショップにおいて昨年度からの参加者の大幅アップが図られた。また「おうめ環境ニュース」についても市民団体と協働で編集を行うことで、市民目線の発行物を作成できたと考えられる。
	清掃リサイクル課	126 ごみ処理施設見学会	市民のリサイクル意識の高揚と啓発のため、リサイクル製品再生工場等の施設見学会を実施します。	・2月24日、東京たま広域資源循環組合のエコセメント化施設およびニツ塚処分場見学、つるつる温泉、青梅市リサイクルセンター 29人	○	市民がエコセメント化施設等を見学しリサイクル意識の高揚が図れた。
	清掃リサイクル課	127 【名称変更】市内一斉美化デー	ごみ減量の啓発および地域の環境美化向上のため、環境美化委員の協力により各地域の美化活動を行います。年2回	名称を市内一斉美化デーに変更し、5月10日(1,096人参加)と12月13日(1,056人参加)の2回実施した。	○	環境美化委員連合会を中心に年2回、市内全域で美化活動が行われると同時に、環境美化の意識の高揚が図れた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実	清掃リサイクル課	128 小学生ごみ減量化・資源化・リサイクル推進ポスターコンクール	社会問題になっているごみ問題について、その減量化や資源化の大切さを個々に考えてもらおうよう、啓発を行います。	小学校11校から91点の応募があり、10月5日に審査会、10月24日に表彰式を行った。入賞作品はロビーに展示し、平成28年度ごみ収集カレンダーの表紙にも使用した。	○	多くの作品が応募されたことにより、ごみの減量化や資源化の啓発が図れるとともに、入賞作品をごみ収集カレンダーに掲載しごみ減量などの啓発を行った。
	清掃リサイクル課	129 ごみ減量講座	資源循環型社会の目的理解と、ごみ減量を目指した学習を通して、ごみ問題についての啓発を行います。	ごみ減量をテーマに、ごみ減量講演会(1回)出前講座(9回)等を行い、ごみ減量の意識の向上を図った。	○	ごみ減量講演会(69人)、出前講座(511人)等に多くの市民が参加し、ごみ減量等の意識の向上が図れた。
	農林課	130 野鳥講座	野鳥についての講義や観察を通じて、森林や自然環境保護の大切さを学びます。	テーマ バードコール・巣箱づくり&ガイドウォークin御岳渓谷 内容 ・青梅の木を守るための木の育て方の講義 ・バードコール・巣箱の制作 ・バードコールを持って、御岳渓谷を散策 実施日 3月29日 会場 御岳交流センター、御岳渓谷 参加人数 14人 指導 土屋 一昭、中島 大輔	○	参加者に対して、アンケートを実施したところ、すべてのグループから「楽しかった」との意見が寄せられ、講座や指導の内容について、一定の成果が得られた。
	社会教育課	131 暮らしやすい環境のための教室・講座の企画	日常生活や環境を考え、暮らしに役立つ工夫やヒントを得る機会としての教室・講座を開催します。	・平成27年度農業・食育体験教室(386人) ・子ども食育教室～農業体験と手づくりアイスクリーム～(55人) ・青梅まちづくり工房～ひとそだちコース～(150人) ・青梅まちづくり工房「日本各地のまちづくりから学ぶ青梅ライフデザイン」(25人) ・青梅まちづくり工房～おとな×若者の交流会～(32人) ・青梅市・東京都オリンピックパラリンピック準備局事業多言語対応表示・標識等に関する調査(6人) ・新町市民センター開設30周年記念企画講座(37人)  ※括弧内は講座の延べ参加人数 計 7講座 延べ参加人数 691人	○	暮らしやすい環境のための教室・講座として、7講座を実施し、2020年の東京五輪を見据えた事業や、青梅まちづくり工房の充実化などに取り組んだ。

3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 地域コミュニティ活動への支援	防災課	132 総合防災訓練	大地震による震災を想定した各種訓練のほか、避難訓練、初期消火訓練など住民参加型の訓練も実施し、防災意識の高揚を図り、防災知識や体験を深め、助け合い、協力し合う自主防災まちづくりを目指します。	市および関係防災機関、市民等が一体となって防災訓練を行うことにより、機関相互の協力体制の緊密化と防災計画の運用習熟化を図り、併せて市民の防災意識を高めることを目的に訓練を実施した。 実施日 8月23日 午前8時から10時 会場 市立新町小学校校庭 参加機関 (1)青梅市 (2)防災関係機関:青梅警察署、青梅消防署他24機関 (3)協力団体等:地元自治会、青梅LPG協会、青梅アマチュア無線クラブ、災害時支援ボランティア、新町中学校、(株)マミーマート、(株)カインズ 参加人数 655人(33機関)	○	防災関係機関、協力団体、市民等、昨年を上回る参加者があり、応急救護訓練や初期消火訓練、応急給水訓練など、住民参加型の訓練を実施により、市民の防災意識の高揚を図ることができたため。
	防災課	133 防災ハンドブックの作成・配布	市民への防災知識の普及および啓発のため、防災ハンドブックを作成し、配布します。市民の自助・共助の精神を養い、災害に対応できるよう支援します。	市民防災ハンドブックの周知を図るため、5月11日から29日にかけて、市民センター等11の会場において、説明会を開催した。	-	平成27年3月に全戸配布、同5月に市民への説明会を実施したため。
	市民活動推進課	134 市民活動災害補償制度	市民活動団体等が、活動中に不測の事故により、参加者や第三者に損害を与え、法律上の損害賠償責任を負うことになった場合または参加者が負傷等された場合に保険で補償する制度を実施します。	市民活動災害補償制度にもとづき、保険請求に係る事務手続きを行った。(市民活動推進係) 受付件数 傷害 26件 賠償 2件 計 28件	○	自治会をはじめNPO団体などの市民活動団体の活動に関して、その活動が安全、安心して行えるように保険に市が加入し市のホームページや自治会へ配布した自治会ハンドブックに掲載、およびボランティア団体連絡会等で周知をして制度について認知が得られ活用されているため。
	市民センター	135 自主学習グループ支援	自主グループが学習活動を継続できるよう、活動場所や資料作成のための印刷機などを提供するほか、日ごろの活動成果の発表の場として、市民センター文化祭などを開催します。	自主グループの活動場所として、会場の貸出し、印刷機の貸出を行った。 自主活動グループと地域住民とで、日頃の活動発表の場として市民センター文化祭を実行委員会とともに開催した。 ・青梅市民センター文化祭 ・長淵市民地区文化祭 ・大門市民センター文化祭 ・梅郷地区総合総合文化祭 ・三田地区総合文化祭 ・小曾木地区文化祭 ・成木地区文化祭 ・東青梅市民センターコミュニティ文化祭 ・新町末広地区市民文化祭 ・河辺市民センター文化祭 ・今井市民センター文化展・ふるさと祭り	○	センターは地域の自主グループを中心とした各種団体の活動拠点としての場所の提供など役割を果たすとともに、発表の場および地域交流の場として文化祭を開催している。 自主グループの学習活動に対し、可能な限り施設等の提供ができた。 また、文化展においても多くの観覧者の参加を得、一定程度の効果があった。
	市民センター	136 支会、体育振興会、自主防災地区委員会、高齢者クラブ等各地域団体の支援	地域活動がスムーズに行われるよう、地域に密着した施設として、会場や備品・用具の提供などにより、地域活動が発展するよう応援します。 地区運動会、各種スポーツ大会、講演会、研修旅行、総会・役員会など	・地域活動が円滑に行われるよう、支会、自主防災組織等各種団体の事務局として、また地域に密着した施設として、会議等活動の支援および会場、備品、用具の提供などの面で地域活動が発展できるよう支援した。 ・地区運動会等の地域行事および各団体の総会、役員会開催のほか、高齢者団体等の地域活動を積極的に支援した。 (主な地域活動) 視察研修、地区運動会、ビーチボール大会、地区防災訓練、防犯・環境巡回パトロール、盆踊りほか。	○	さまざまな地域団体の事業の支援を行うとともに、支会の事務局として地区運動会、支会盆踊り大会、ソフトボール大会など地域行事の支援を積極的に行っている。 各種団体の事務局として、地域団体活動を支援するとともに、施設等の提供も行い、一定の成果を上げることができた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 地域コミュニティ活動への支援	スポーツ推進課	137 青梅型地域スポーツクラブ	「本市の自然環境をいかしたスポーツの推進」を図り、スポーツを通じた「青梅らしい」スポーツの機会を拡充します。青梅型スポーツクラブは、スポーツだけにとらわれず文化的側面等もふまえた教室・イベントを展開し、青梅の魅力に触れる機会を増やします。例 青梅の森において、ノルディックウォーキングをつかった自然(森)の観察会など	12月25日に本市では、二つ目となる「地域スポーツ文化交流クラブままにこっと」を設置。スポーツ・文化をつうじた交流、スポーツ・文化をつうじたまちおこしをモットーに、主に子育て世代へ向けて、スポーツを通じた子育て支援事業を実施。また、昨年度、設立した地域スポーツ文化交流クラブ御岳もラフティングやリバーサイドヨガなど、青梅市の地域特性を活かした事業を実施した。	○	実施が困難であった子育て世代向けのスポーツ施策が、自主保育による子育て世代向け事業を行える地域スポーツ文化交流クラブままにこっとの協力により可能になった。同年代の子どもを持つ子育て世代が、子どもを連れて参加することで、親同士の交流の場としての役割を果たしている。地域スポーツ文化交流クラブ御岳および地域スポーツ文化交流クラブままにこっとは、継続的な運用に向けて、今後も事業内容や実施方法について検討が必要と考えられる。
	スポーツ推進課	138 地区市民運動会等支援	青梅市自治会連合会の各支会、地区体育振興会、三団地連絡協議会等に対し、地区市民運動会等交付金を交付し、地区体育の振興とコミュニティの醸成を図ります。	交付団体数: 14団体 交付金額: 13,778,000円 ※要綱にもとづき、5月と9月に交付	○	各地域で運動会やスポーツ大会などの開催にかかる経費に支援することができ、事業の目的を果たすことができた。今後、自治会・支会が行うスポーツ・レクリエーション活動を交付対象にするなど、活用の自由度を広げる検討もしていきたい。
	清掃リサイクル課	139 環境美化大会	ごみ減量を中心に、市の環境衛生美化推進のため、環境衛生・美化善行者、団体等への表彰と講演会を行い、地域における市民活動を支援します。	環境美化委員をはじめ、環境衛生・美化善行者、優良団体等の表彰を行い、「分ければ資源！進めようごみの分別！」と題した講演会を実施した。	○	美化活動およびごみ減量推進にご尽力いただいた市民および団体を表彰し、地域における市民活動を支援した。
	清掃リサイクル課	140 資源回収の奨励	自治会、子ども会等の地域活動の一環として、資源のリサイクルの必要性を認識し、リサイクルの促進に取り込み、ごみ減量を図ります。	140団体が実施 資源回収量は4,307,083.9kg。 報償金42,619,866円、特別報償金4,412,854円を交付した。	○	多くの団体が資源回収に取り組み、多くの資源が回収できたことによりごみ減量が図れた。
	社会教育課	141 社会教育関係団体補助	市内の社会教育関係団体に補助を出し、その活動を支援します。	青梅市文化団体連盟23団体 青梅ボーイスカウト連絡協議会3団体	○	2団体に補助を行い、各団体の活動に活用された。
	文化課	142 総合文化祭	青梅市文化団体連盟との共催により、市民の日ごろの学習成果発表の場として、各参加団体の舞台発表や作品展示等の総合文化祭を開催します。	総合文化祭開催期間 期間10月2日～11月23日 参加団体 30団体 参加者数 10,733人(観覧者含む)	○	文化団体連盟に加盟している、合唱連盟、三曲連盟、日本舞踊連盟、吟詠連盟、華道会、陶芸連盟、盆栽協会、書道連盟などの団体が市民会館等を会場に、発表会や展覧会を開催した。総合文化祭の参加者数・観覧者数は前年に比べ若干減少したが、文化団体連盟には新しい団体の加盟もあり、組織は活性化しつつある。
	吹上中	143 落ち葉掃き等ふれあい活動	・学校周辺の落ち葉やゴミの回収、学校・地域の美化活動に努めます。 ・活動を通して身近な環境について考える機会とします。 ・保護者、地域の人々と活動を共にすることにより地域の人々とのふれあいを深めます。毎年12月実施	若林博司氏を講師に招き、「里山―川と森の恵みと人の暮らし」のテーマで講演をいただいた。講演後学校周辺の落ち葉掃きを学校と地域が一緒になって実施し、実施後にはPTAの保護者が作った豚汁を配布した。  実施日12月19日 参加人数 300人	○	例年、豚汁に使っている野菜は、落ち葉掃きの際に集めたものを堆肥にして使用し生産されたものを農家から頂いたもので、地域環境の学びだけではなく、地域連携にも役立っている。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 地域人材の育成と活用	商工観光課	144 合同企業説明会in青梅	『地学地就』(地元で学んで地元就職する。)をテーマに、多摩地域の学生と、新卒採用する企業との出会いの場を提供します。	・合同企業説明会in青梅 実施日 10月6日 会場 青梅市総合体育館 参加人数 76人	○	出展企業ごとにブースを設置し、それぞれのブースで会社説明会を実施。 平成28年3月末卒業の大学生・短大生・大学院生・専門学校生及び第2新卒の学生が参加し、マッチングが行われた。
	防災課	145 防災リーダーの育成	自主防災組織の主體的な活動の要となる防災リーダーについて、計画的な育成を図ります。	・自主防災組織の強化および防災リーダーの育成を図るため、防災士の資格取得にかかる経費を8組織に交付した。 ・防災リーダーの育成を目的とした防災リーダー講習会を実施し、防災士資格を取得した12人を含む市民が参加。防災リーダーの育成を図った。 実施日 2月28日 参加者 66人	○	防災士の資格取得にかかる経費を11組織分確保したが、8組織にとどまったため。
	市民センター	146 子ども会ジュニアリーダー講習会	子ども会の最上級生となる小学校6年生を対象に、子ども会リーダーのあり方や行事計画の立て方、ゲーム指導などの講習会を行い、下級生の面倒を見ながら、子ども会活動ができるようにします。	・地域PTAの協力のもと、地区青少年委員を講師にジュニアリーダー講習会を開催した。(7月4日)(長淵C) ・小曾木地区では、青少年対策小曾木地区委員会が中心となり、小中学生を対象にジュニアリーダー講習会を年3回、実施している。(小曾木C) ・青少年と協力してジュニアリーダーキャンプ(1泊)や天然の青竹を使った流しそうめん&マスつかみ取りと川教室などを行い、子どもたちが主体となって下級生の面倒を見ながら、楽しく子どもが交流できるようにした。(成木C) ・ジュニアリーダー講習会を実施し、ジュニアリーダーの育成に努めた。(東青梅C、新町C)	○	青少年の育成の支援の一つとして、地域内のジュニアリーダーの養成を支援し、地域の青少年の健全育成を図る取り組みを支援している。
	市民センター	147 子ども会育成指導者講習会	子ども会育成会役員などを対象に、子ども会活動のあり方や運営のポイント、レクリエーションのポイント等について研修会を行い、地域子ども会活動の活性化を図ります。	・ジュニアリーダー講習会と同日に子ども会育成指導者学級を開催し、地域の子供会活動の活性化を図った。(東青梅C) ・地域子供会活動への会場提供等を行った。(河辺C)	○	青少年の育成の支援の一つとして、地域内の子ども会指導者を支援し、地域の青少年の健全育成を図る取り組みを支援している。
	市民センター	148 地域の特性を生かした事業	各市民センターにおいて、その地域の特性を生かした講座・教室などを実施します。	・青梅七福神を3日間にわけてめぐる街歩き講座を実施した。(青梅C) ・地元講師によるそば打ち教室、地域を歩いて歴史や風景に現れる特性を知るために「地域散歩」を行った。(長淵C) ・園芸農家の方の指導で「家庭菜園」「庭づくり」「クリスマスリースづくり」の教室を開催した。(大門C) ・地域の伝統食でもある年越しそば作りを体験する「そば打ち教室」を開催した。(大門C) ・梅郷ホテルウォッチング、ふるさと探訪「多摩川南岸を歩く」を実施した。(梅郷C) ・御岳ビジターセンター職員を講師に登山教室「自然観察ウォーキング 紅葉の御岳山」を開催した。(沢井) ・地元のサークルの協力をいただき、手打ちそば教室を実施した。(小曾木) ・苔玉教室、ハイキング教室、親子つり体験教室、流しそうめん&マスつかみ取り体験教室などを行った。(成木) ・地域の神社仏閣をめぐる東青梅ウォーキングを実施した。(東青梅C) ・センター開設30周年企画として、「新町ウォーク」～新町の風土と歴史～を実施した。年末の企画として「そば打ち教室」を実施した。(新町C) ・日々の生活の礎として「健康」と地域社会でのネットワークを広げ新しい出会いの場を作るため、60歳以上を対象に「のびのび健康体操教室」を実施した。(河辺C) ・日ごろのちょっとした運動が健康づくりのポイントとして、高齢者向けに、身近なものを利用した自宅でもできる、「おてがる体操教室」を実施した。昔食べた懐かしいおやつづくりのため、地元の高齢者を講師として「おばあちゃんのゆでまんじゅう教室」を開催した。(今井)	○	地域の魅力を再発見する良い機会となり、参加者の感想からも満足度の高さが伺えたため。 参加者が実体験することにより、地域の歴史の移り変わりなどを身近に感じる事ができた。 生涯活動の拠点として、地域を知っていただく良い機会となった。 参加者からのアンケート結果からも、評判が良く、所期の目的は果たせたものと評価する。
	スポーツ推進課	149 スポーツ推進委員研修	スポーツ推進委員の資質向上を図るため、各種研修会を実施するとともに、東京都スポーツ推進委員協議会等が主催する研修への参加を促します。	ニュースポーツ、綱引き、障がい者スポーツ等の研修会に参加した。 回数 4回 延べ参加人数 71人 東京都スポーツ推進委員協議会等の研修会に参加した。 回数 6回 延べ参加人数 46人	○	地域のスポーツ推進に関して、指導的な立場にあるスポーツ推進委員の資質向上のため、研修会等へ積極的な参加をしている。 今後の継続性について、委員の選出に当たり後任者探しが困難になっている現状があり、スポーツ推進委員の選出方法等に関して今後検討が必要。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 地域人材の育成と活用	高齢介護課	150 シルバーマイスター制度	優れた技能、知識、経験等を有する高齢者をシルバーマイスターとして認定・登録し、市民の学習活動の講師や指導者として推薦します。	マイスター認定者 28名 平成27年度認定者 0名 活動回数 約500回 (活動内容:グループホームで生け花の交流会、きのこに関する自然教室多数、ウクレレサークル活動、健康麻雀教室、市民センター等でそば打ち指導、デイサービスへの出張演奏、和紙ちぎり絵教室、学校行事の講師「森と水」、談話と水墨画教室等)	○	平成27年度は応募がなく、マイスター認定者は0名であったが、登録しているマイスター認定者28名の活動回数は全員合わせて500回以上となり、学習活動の講師や指導者として活躍している。
	商工観光課	151 吹上しょうぶ公園・梅の公園ボランティアガイド	花しょうぶまつり・梅まつりの期間中に、市民によるボランティアの協力を得て、園内の案内をしていただくとともに、自然に親しみ、人とのふれあいの場を提供するため、ガイドを募集・講習会を行います。	・吹上花しょうぶ祭り(平成27年6月1日～30日) しょうぶ公園ガイドボランティア (1)講習会の実施 実施日 5月26日(午前・午後) 内容 花しょうぶと周辺ガイド講習会 (2)新規募集 しょうぶ公園ガイドボランティアの新規募集を平成27年1月に行い、平成27年3月3日、4月6日、5月12日、7月7日、8月11日に講習会を実施。  ・梅の里再生まつり(イベント中心としたおまつりを実施、平成28年3月6日～3月27日) 梅の公園ガイドボランティア (1)打合せの実施 実施日 2月24日(午前) 内容 再生に向けた取り組み、28年度以降の活動について	○	しょうぶ公園ガイドボランティアについては、新規募集・講習会の実施ができた。また、しょうぶまつり期間中には、園内の案内をしていただいた。しかし梅の公園ガイドボランティアについては、休止していたため。
	農林課	152 青梅市森林ボランティア育成講座	初心者・未経験者を対象に、下草刈り、枝打ち、間伐などの森林施業に必要な知識や技術習得の講義・実技指導を行い、森林整備の新たな担い手としての森林ボランティアの育成・組織化を図ります。	平成27年度は、第7期の2年目として、実践的な内容を中心に実施した。 第1回 5月9日 間伐、道づくり 19人 第2回 7月11日 下刈り、竹細工、座学 19人 第3回 9月12日 間伐 16人 第4回 12月5日 竹林間伐、竹細工、炭材づくり 13人 第5回 1月9日 枝打ち 15人 第6回 3月12日 閉講式、意見交換会、周辺山林の視察 18人 延べ参加人数 100人	○	受講者にとって、2年間の講座で知識、実技とも身につけることができたことから効果的な取り組みであった。また、毎回講座終了前に受講者に作業日誌を記入していただいているが、ほとんどの受講者から充実した内容であった旨の記入があり、一定の成果があったと考えられる。
	公園緑地課	153 緑地管理ボランティア	緑地管理ボランティアを対象とした講習会を開催し、技術や知識を高め、永山公園内緑地を良好な環境に保つボランティアとしての資質の向上を図ります。	実施日 毎月第3土曜日(8月除く)に実施(計11回) 場所 永山公園内ボランティア管理緑地・釜の淵公園ほか 延べ参加人数 113人 内容 下草刈りおよび支障木伐採等	○	長年経験してきた人が多く、技術や知識も身につけており、永山公園内緑地を良好な環境に保持するだけでなく、釜の淵公園や他の施設においても管理作業をお願いし、良好な環境の保持に貢献していただいた。
	社会教育課	154 青少年リーダー育成研修会事業	小学5年生から高校3年生までを対象に、異年齢集団による団体活動を通じて、自主性や社会性を養い、リーダーとしての資質の向上を図ります。	6月8日～8月31日 全7回 市役所、国立妙高青少年自然の家ほか 延べ参加人数 299人	○	全7回の研修会で、班活動やアウトドアスポーツ、プロジェクトアドベンチャー等の活動を実施し、仲間との信頼関係を築くことや、自主性・社会性の養育を図った。
	社会教育課	155 講師・指導者およびボランティア協力者・協力団体人材登録制度	地域の人材を発掘し、身に付けた知識・技術などを広げていくため、人材登録制度を実施し、地域の教育力の向上を図ります。活用を促進するため、ガイドブックを発行します。	教育委員会ホームページにて情報提供した。 個人 文化系 42人 体育系 9人 団体 文化系 2団体	○	3年に1度の登録の更新を行った。登録者が微減したことから、人材登録の新たな登録者を増やすため、今後も広報おうめや生涯学習だよりを活用し、広報していく必要がある。



施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 地域人材の育成と活用	文化課	156 芸術文化奨励賞	青梅市の芸術文化の発展を願って、地域で活動されている芸術家の方を発掘し、表彰します。	陶芸 樋口英晴 国際アマチュア陶芸展伊万里2015「鍋島大賞」受賞 書道 梅林房江 第67回毎日書道展「毎日賞」受賞 書道 保坂希美 第27回全国ひらがな・かきかたコンクール 硬筆の部「文部科学大臣賞」受賞 書道 嶋田愛沙 第30回全国硬筆コンクール「文部科学大臣賞」受賞 第31回全国年賀はがきコンクール「文部科学大臣賞」受賞 書道 出口結子 第27回全国ひらがな・かきかたコンクール毛筆の部「文部科学大臣賞」受賞 音楽 佐々木悠貴 第5回日本バッサンコンクール全国大会 中学生部門Bコース「金賞」受賞 音楽 市立第三中学校 吹奏楽部 第20回日本管楽合奏コンテスト 中学校A部門「最優秀賞」受賞 音楽 市立第六中学校 吹奏楽部 第55回東京都中学校吹奏楽コンクール「東日本部門金賞」受賞 東京都代表として第15回東日本学校吹奏楽大会出場 音楽 市立吹上中学校 吹奏楽部 第55回東京都中学校吹奏楽コンクール「東日本部門金賞」受賞 東京都代表として第15回東日本学校吹奏楽大会出場 音楽 市立泉中学校 吹奏楽部 第20回日本管楽合奏コンテスト 中学校A部門「最優秀賞」受賞	○	学校や文化団体へ、芸術文化奨励賞の周知を図るとともに、広報おうめや市ホームページ等を通じ、広く周知することができた。それによって、芸術・文化活動に業績を上げた対象者をもれなくリストアップできた。 基金をもとに、受賞者には奨励金を交付した。
	中央図書館	157 おはなし学習会	おはなし(ストーリーテリング)の初心者で、市内でおはなしの活動をされたい方、または行っている方を対象に、実践を含めた勉強会を実施します。	・おはなし学習会(中級) 4月22日～3月23日 10回 延べ参加人数 68人 ・おはなし学習会(上級) 6月19日～3月25日 9回 延べ参加人数 56人 ・おはなし勉強会 4月26日～6月27日 3回 延べ参加人数 16人	○	おはなし学習会(中級・上級)およびおはなし勉強会を合わせて計22回開催し、延べ140人の参加者があった。今後も開催回数や内容の充実を図ることが課題である。
	中央図書館	158 絵本のべんきょう会	市内でおはなしの活動をされたい方、または行っている方を対象に、絵本の読み聞かせの実践を含めた勉強会を実施します。	・絵本のべんきょう会 5月15日～3月11日 6回 延べ参加人数 127人	○	絵本のべんきょう会を6回開催し、延べ127人の参加者があった。今後も開催回数や内容の充実を図ることが課題である。

4 学習情報提供と学習相談の充実

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 学習情報提供の充実	秘書広報課	159 広報おうえみの発行	行政情報を中心に、制度や催しのお知らせのほか、市民や市内の出来事などの紹介や市民グループからの情報なども提供します。月2回発行	24回(毎月1日・15日)発行した。内訳 10ページ5回、12ページ16回、14ページ3回 1月1日号と2月15日号は、市民の方からの公募による写真等の掲載を行った。3月15日号から、AR技術による動画配信を開始した。	○	全面カラー印刷とし、写真の掲載や、AR技術による動画配信の開始など、より多くの市民の関心を喚起するよう努めた。また、全体の構成や記事の内容などに留意し、読みやすい紙面とするよう努めた。
	企画政策課	160 男女平等情報紙	市民の関心と理解を深めるため、男女平等情報紙「よつばの手紙」を年2回発行します。	市民等への男女平等参画の意識啓発のため、男女平等情報紙「よつばの手紙」を9月と3月にそれぞれ34,000部発行し、自治会加入世帯および公共施設等へ配布した。	○	情報紙は、市民が参画する編集委員会が企画・編集しており、毎号、記事内容、装丁などの更なる充実に向けて話し合いながら取り組んでいる。
	情報システム課	161 インターネットホームページの充実	青梅市について広く周知するため、利用者(閲覧者)にとってより、分かりやすく効果的な情報発信ができるようホームページ機能の充実を図ります。	より効果的でわかりやすい情報発信に向けて、子ども向けの「おうえ子どもポータル」およびインターネットの動画配信サービスを活用した青梅市公式動画チャンネルを開設した。	○	大きな課題や問題なく取り組むことができ、充実を図ることができた。
	市民税課	162 青梅税務署管内小学生による『税を考える週間』書道展	西多摩地区税務協議会主催で、青梅税務署管内の小学5・6年生を対象に、書道作品の募集を行います。厳正な審査を行い、入賞者を決定、入賞作品の展示会(イオンモール、合同庁舎)および表彰を行います。	青梅税務署管内小学5・6年生から4,134点の応募があり、青梅市からは16校1,333人から応募いただき、うち特選 6名、準特選 3名、金賞 11名、銀賞 13名、銅賞 13名、佳作 56名 計102名が入賞した。入賞者の作品については、下記会場にて展示を行った。 ・イオンモール日の出 イオンホール 会期 11月6日～8日 ・青梅合同庁舎(青梅都税支所) 会期 11月10日～13日	○	応募校および応募者数ともに昨年を上回り、書道を通じて税に関する正しい知識の普及と意識の高揚を図り、租税教育を推進することがおこなわれた。
	防災課	163 土砂災害対策の充実	土砂災害ハザードマップを作成・配布し、危険区域の住民周知を行うとともに、土砂災害対応訓練を実施し、市民の防災意識の高揚と知識の習熟を図ります。	・第7支会(成木地区)をモデル地区に定め、土砂災害ハザードマップを更新、区域内の全戸に配布して危険区域および避難所の周知を図った。 ・青梅市民センターおよび天ヶ瀬運動広場において、関係機関相互の協力体制の緊密化および防災計画の習熟化を図り、市民の防災意識を高めることを目的として土砂災害対応訓練を実施した。 ・実施日 6月28日 参加人数 910人(土砂災害対応訓練 797人、水防訓練 113人)	○	・第7支会(成木地区)の土砂災害ハザードマップを地域住民の意見を取り入れ更新することで、市民の土砂災害に関する防災意識の高揚を図ることができた。 ・土砂災害対応訓練においては、過去最大の参加人数となる910人が参加することで、市民の防災意識の高揚および知識の習熟を図ることができた。
	市民センター	164 市民センターだよりの発行	市民センターで開催される事業や地域の色々な行事などの話題をお知らせします。	・各支会の行事を青梅市自治会連合会ホームページに掲載し、情報発信を行った。 ・センターでだよりを発行し、市民センター行事や支会行事情報の周知に努めた。	○	HPによるお知らせとともに市民センター便りを発行することにより、より幅広い市民への周知を図っている。 各自治会へ回覧するなどにより、ホームページの閲覧などパソコン操作が苦手な方などへも、一定の周知ができたため。
	商工観光課	165 観光CD-R等の貸出し、観光テレフォンサービス	青梅市の観光について知っていただき、理解を深めていただくため、気軽に利用してもらえる情報を提供します。	観光テレフォンサービス利用状況 催し物案内、花と紅葉の情報、御岳溪谷・御岳山・吉野梅郷等案内 658件	○	テレフォンサービスについては、旬な観光情報等案内できたが、観光CD-Rの貸出しは、できていないため。
	社会教育課	166 生涯学習だよりの発行	市の各種教室、講座、講演会、イベントや市民グループ・団体および西多摩の関係施設の生涯学習情報をまとめて提供し、市民の学習活動を応援します。 年4回発行(4月・7月・10月・1月)	生涯学習だよりの部数を各回1,500部、年4回発行した。また、教育委員会ホームページにも掲載した。	○	各種団体の行事・イベント等予定の掲載のほかに、実施した事業などの掲載も行った。掲載内容については今後も検討していく。
	社会教育課	167 市民企画講座の募集	まだ、青梅市では開催されることがないような講座の企画を市民から募集し、市民センター等で開催します。	生涯学習推進市民会議企画講座を開催した。 計7講座 延べ参加人数 356人	○	市民会議委員の協力により、講座を実施した。成人向けの生涯学習講座を中心に実施し成人教育の充実が図られた。
社会教育課	168 社会教育事業の学校への周知	市民センター等で実施する生涯学習事業を積極的に学校へ周知をします。	講座開催ごとに、小・中学校などにポスター・チラシを送付したり、生涯学習だよりを配布して周知した。	○	講座によってチラシの配布方法を変更したり、学校からの申込みを増やすために、申込みボックスを設置するなど工夫を図った。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 学習情報提供の充実	中央図書館	169 図書館報の発行	図書館の事業や新着図書を紹介する図書館報を発行します。	・図書館報 年4回発行・各回300部作成 中央図書館・各分館で配布、ホームページへの掲載	○	年4回発行し、図書館事業を紹介することができた。今後も内容の充実を図ることが課題である。
	中央図書館	170 ブックリストの配布	幼児、小学校(低・中・高学年別)および中・高等学校の児童・生徒に推薦図書リストを配布します。	・幼児向けブックリストを、市内幼稚園、幼稚園、保育園を中心に886部配布した。 ・小学校(低・中・高学年)向けブックリストを改訂し、市内の小学校を中心に7,778部配布した。 ・中高生向けブックリストを中学校、高等学校に1,477部配布した。	○	保育園や小中学校など市内全域の幼児・児童・生徒にブックリストを配布することができた。
	中央図書館	171 分館図書館だよりの発行	新着図書を中心に、特集なども組んだりしながら、市民への推薦図書を楽しく紹介する、図書館だよりを発行します。	・分館図書館だよりの 毎月発行(年12回)・各回180部作成 中央図書館・各分館で配布、ホームページへの掲載	○	毎月発行し、発行時期に応じた特集や新着図書を紹介することができた。今後も内容の充実を図ることが課題である。
(2) 実 学習相談の充	社会教育課	172 学習相談	青梅市に登録された講師・指導者等の人材情報や生涯学習施設、講座・催し物、学習グループ等の情報にもとづいて学習相談を受け、市民の学習意欲が活動につながる相談体制を構築します。	窓口で随時情報提供を行うほか、ホームページによる周知を図った。	○	窓口や電話でのサークル紹介や講師紹介を行った。

5 生涯学習推進体制の確立

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成27年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 推進体制づくり	職員課	173 職員対象啓発事業	「青梅市生涯学習まちづくり出前講座」等の生涯学習の推進を図るため、担当業務に精通する上で必要な研修の受講を支援し、職員の生涯学習に関する意識を啓発します。	業務に必要な知識等の修得を図るため、東京都市町村職員研修所の実務研修に29名、東京都研修所等の公的機関が主催する研修に15名、その他各種研修機関が主催する研修に41名、先進自治体などの視察に11名の職員を派遣した。 また、自己啓発学習を促す通信教育等を31名が受講するとともに、国民生活を支える社会的基盤であるマイナンバー制度については、eラーニング研修を158名が受講した。	○	平成27年度研修実施計画にもとづき、職層や経験年数に応じた研修に、効果的に職員を派遣することができた。 また、派遣人数についても、概ね、平成27年度研修実施計画で計画したとおり派遣することができた。
	社会教育課	174 生涯学習推進本部	市長を本部長とする生涯学習推進本部(行政組織)で、生涯学習推進の目標・基本方針、推進計画を策定し、生涯学習推進施策を全庁的に進めます。	・生涯学習推進本部会議開催数 2回 第1回開催日 4月14日 第2回開催日 10月13日  内容 出前講座の進捗状況、新緑祭の開催について等	○	生涯学習本部会議を2回実施し、各課で行う出前講座の進捗やその他青梅市の生涯学習に関する報告等を行い、青梅市の生涯学習全体の状況について議論した。
	社会教育課	175 生涯学習推進市民会議	学識経験者や生涯学習関係団体の代表者等からなる市民組織。市民の声を聴きながら、市と市民の協働で生涯学習推進施策を進めます。また、生涯学習推進市民会議企画講座を実施します。	・生涯学習推進市民会議開催数 2回 ・管外視察研修 10月28日 志木市いろは遊学館  ・生涯学習推進市民会議企画講座 7講座 延べ参加人数 356人	○	市民会議を実施し、新緑祭の運営方法等や市民会議企画講座の実施の促進等について話し合った。 また、管外視察研修として、図書館、小学校、生涯学習施設が一体となった志木市いろは遊学館を視察した。

平成28年度  
第五次青梅市生涯学習推進計画進捗状況報告書  
(平成27年度分事業)

発行 青梅市生涯学習推進本部

編集 青梅市生涯学習推進本部事務局

青梅市教育委員会教育部社会教育課

〒 198-8701 青梅市東青梅 1-11-1

TEL 0428-22-1111

